

132X
34
1

伊勢物語註

墨川本

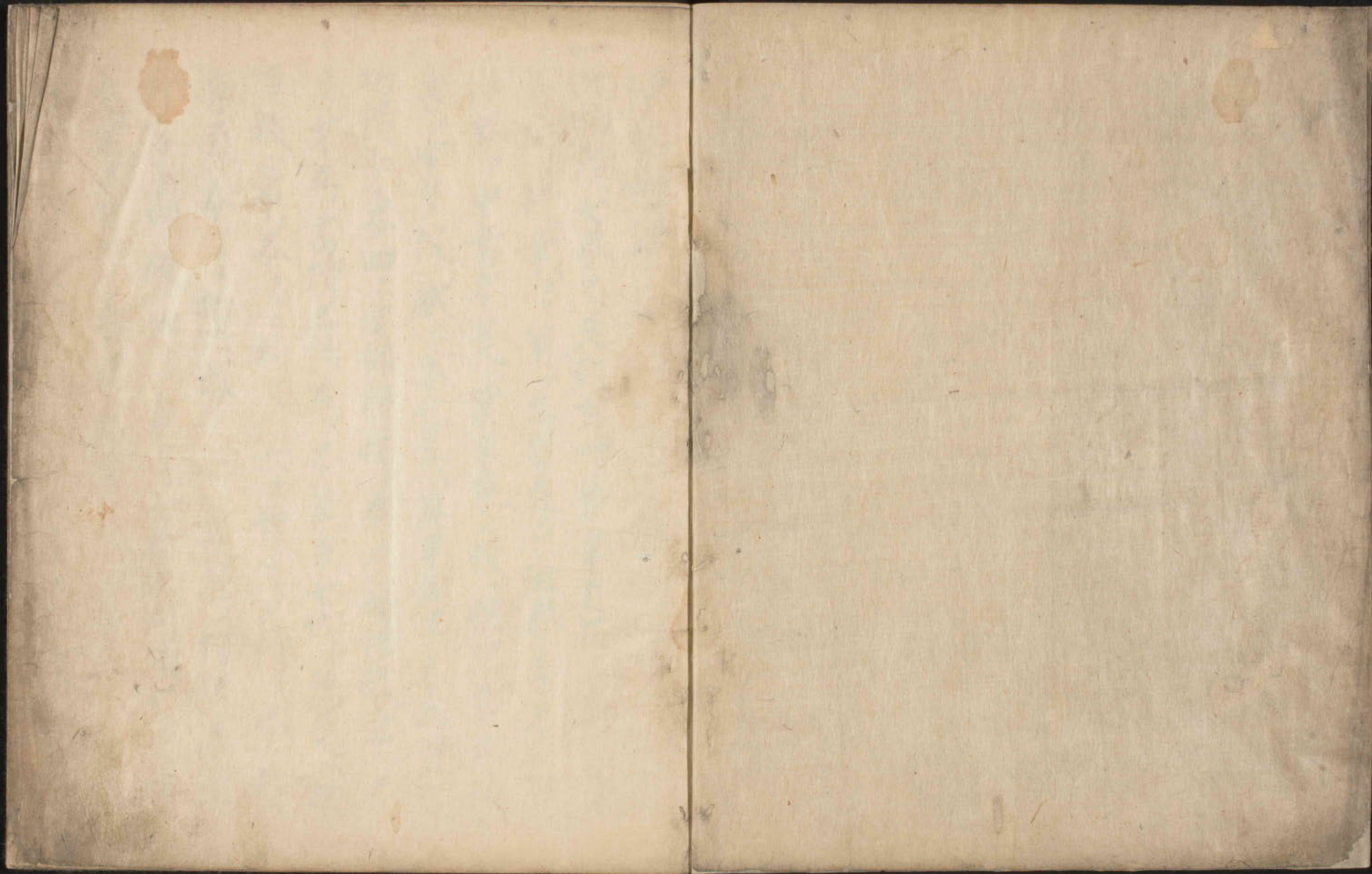
足利中興古寫本
片十文



定家流

伊勢物語註

三十一



伊勢物語

定家流

黒川真道藏書

真道

一此物語七本之差別有一葉平自筆ノ本是ハ
 芹河ノ行幸ヨリ奥ヲ二男在原滋春書本二三
 伊勢ノ中書本是ハ葉平死去後ニ後中書王清
 書メ宇多院ニ獻セ本也二三具平親王ノ本此ハ裏書
 物語ニシテ本四ニ安部師安ノ本此ハ物語數常ノ本
 ヲリ少シ五ニ高階ノ二位ノ反ノ本葉平七代ノ孫是ハ物
 語數ハ常ノ本ヨリニ調タル也六ニ賀茂内侍ノ本此ハ
 普通ノ本ヨリニ物語數多シ七ニ長能ノ狩使ノ本是ハ
 升宮卜向ノ辰ヲ始トメ書ケリ七本不同雖有之皆
 是葉平自筆ノ本ヨリ出タリ

一今此本家流ハ朱雀院御宇大宰大貳後ニ位行



黒川真道藏書

藤原長能右 權佐四位下行源道濟 二人勅
髓腦本證注裏書ハ其書ヲ別テ塗龍ニ被置也
故朱雀院塗龍本ト云 此本ツ以テ所相傳來也狩使
本者為秘實義長能道濟書置ニナリ 禮家ニ
注有之 以今家之流可為正流者也

一問云伊勢物語ト云心如何 答云一ハ伊勢葉平ノ中
書ヲ清書メ宇多院ニ獻セシムル作者ニホセテ為名ニ
升宮奉嫁之仁自昔至今無不家神罰而葉平雖
奉密通升宮不家神罰可知 逋直也人依為珍事為
名ニハ物語次第不同也 奥ツハ端ニ書キ端ツハ奥ニ書キ
而間伊勢ヤ日向ノ物語ト云義也

私云此第二義稱徳天皇御宇伊勢國文屋

良筭ト云者アリ 又日向國佐伯恒元ト云者同年
同月同日時生死ニ魂魄手入替ル事アリ
日本記流トテ勅中人トテ難指南之間不能
委細

問多義中何ヲ可為正 答為秘實義本多義ヲ
實ニハ男女物語也日本記云伊者女種ヲシサムトヨメリ
凱者男種ヲニラトヨメリ

貴長房記云伊勢契ハ示艷粉好色ノ道ツサハ

↑ニセナリ

太平後記云伊比國之使人勿愛在十共勢國護
媒云勿捨定在百徳

九伊勢者陰陽之二法天地之象儀ナリ 然則カ行

カ常皆不離伊弉諾ヲ以比物若シ名伊弉物若
事ハ天神七代ヲ勢トシ地神五代ヲ伴トス天神七代
ト云ハ一國常立尊男二ニ國獲根尊男三ニ豐斟濟
尊已上三代天地始テ開テ空中在物其形アリカヒノ
如シ則神ト成シリ是世ノ始ナリ四返瓊尊男沙瓊
尊女カハ大戸之道尊男大戸間邊女六面足尊男
惶根尊女已上三代六神始テ男女ノ形アリト云トモ
陽配偶之振舞又アリ給ヘル所シモ不知セ伊弉諾
尊男伊弉冉尊女已上一代二神昔天ノシキハシノ
シヘニシテトモニハアリテ云クバトニ豈國ナカラシヤトテ
アメノミホフシサシロシテサケリ玉フニアツシナハラ
アリ其ホフノミタリシシホ凝テ一鳴トナシリニ神

其鳴トナテ夫婦トナリ給フ先ツツホヤソシニ國ヲ
造給フ次ニ山鳴海河ヲ作給フ又木草ヲ作給フ
サテ世ノアルシタルキ者ナカラシマトテ一女ニ男ヲ生
給フ所謂日神月神蛭子素盞尊是也ソノ談路
國ニ宮造テアリシ所又已上日本記ニ註セリ以テ天神為
勢ト以地神為伴ト云ハ天照大神正哉吾勝速日天
忍穗耳尊トハ天照大神ト弟ノ素盞尊トシテ
化生シ給ヘリ已上二神ナラメノ宮御坐シテハ國ト下
ルハ天津彦火瓊杵尊彦火之出見尊彦波瀲武
鸕鷀草葺不合尊已上地神也代也普通義也又地神
カ代ト云ハ天照大神日神月神蛭子素盞尊ト云事
アリト阪ニ可明問云天神ト何人哉答云元躬無

形色之行ノ虚空遍満ノ性トシテ色祚ナリシハ立
神ナルハ故ニカ行始テ形色顯メテシテカキノ如クメ
空中ニマリシナリ始ニ柱神ハ男神次ニ代六柱
神ハ男女ナリシナトニ無配偶ノ儀而伊弉諾伊弉册
始テカ行ノ性ヲ堅テ國ヲ作草木ツ作り一女ニ
男ツ生テ國ノ王トナシカフ也ナシハ伊弉諾伊弉册夫
神ツハリ地神ノ始ト申也皇間云伊弉義我ヲ以
不造定何トシハ天神カ觀以地神カ伊弉答
夫ハ陽地ハ陰ニ陽和合日本國ツ生セリ其主カ神
即伊弉國ニ御鎮坐ナリ此國ツ伊弉ト云事ハ
一ノ日神ツ分陰陽ノ宮ト云故ニ男女ノ義ナリ男女
ニ神ノ御在所トシハ伊弉國ト云也所謂日神伊弉

外宮木姓神東方ツ主ル天照大神ハ内宮中央ニ
四方四角ツツカサトリ給フ土姓神蛭子ハ西宮靈
南方ツツカサトル火姓神三歳ニテアヒタサリシカハ
海中ニ捨ナリシヲ龍神ノ養タテニツリシ也素戔嗚
ハ本雲火社西方ツツカサトル金姓也是ヲ地神カ代ト
云ナリ向日本記ニ一女ニ男ト見ナリ何ソカ人ト云年
答一女ニ男ノ内カ人ナリ其故ハ伊弉大神宮ニ本社
アリ内宮外宮胎金ノ本部也本部トナシカ夫日一
野也而社トナシトニ日神一社也一物ニ陰陽ノ義アリ一社
男女ノ心アリナリハ日神大神一社ナカ故ニ一女ニ男トナ
トモ一女ト云ハ大神ナリ然者以此國ツ伊弉國ト云也
男女ノ物語ナシハ伊弉國カ語ト云也神ハ社達カカ佛

カ智のアルカ大也也カ行カカ門ナリ春夏
秋冬土用のカ季也東西向北中ノカ方ナリ木火土
金水ノカ大也青黄赤白黒ノカ色也仁儀礼智信
カ常也是皆陰陽ノカヨリカタリ統間万物皆陰陽
攝日神ハ木姓素盞烏ハ金姓ニテ金尅木ニテ中
ツルヒテカ雲團ニシハセシ也大方金姓ハ物ツ破ルハ
素盞烏ハ惡心ツ殺メ天照大神ツ責給ヒ中央土神
心ニテ万物ツ生長スル義アル依テ衰ツ無テ更ヒ
ルヒカメアル岩戸ニ閉籠リ坐シナリサシトモ
終ニ湯中ツヨクナリハ土生金ノ故ニ相生シカヘリ其時
ニ神正我吾勝ニ連日天孫穗耳尊ツ化生シカ
ナリ湯中ノアルナリハ木ト金ト金尅木ノ故ニ相尅ニテ

アルナリナリ又カノカ素盞烏ノ天照大神ニカ中ツ
ツカヒテカ雲團ハタリカカ旗河上ノ老翁夫婦ナキ
イタリカ女ツイタキテナキイタリアヤト河カ
答云天神ノ子アルナリナリ神變ナリテ地
神トナシリイタケルカ我女箱田姫ナリハ山ハ頭龍
アリ来テ年カ我子ツイワ今此箱田姫ハナリ也其
來テ一喰ト云テナキケハ素盞烏カ我ツ知テトテハ
八頭龍ツ致テテテハ酒船ニ酒ツ入満テニツノツニシ
カ女ノ形ニ作テ岑ニタテタリ其女ノカケハ酒船ニツ
シリカ龍ハ頭ハ尾アリ芥ニ諸ノ草木生テ如大山
カ女ノ形ツ見テ飲カカ八頭ツ八船入テ酒ツ忠飲カ
サテエヒ外タルツカ鈕ツヌキテカ腹ニ切ヒアル尾ノ中

キスアヤシニテ破テミルニ釵アリ今ノ宝釵ト是也其
後姫ヲ妻トシテ子ニセキソカノ里ニ宮造シテ坐シ
ヘリハ雲ヲツノケテハ以時ヨミタラフ也問云抑今家
本ニ題目不書心如何答云伴瓊トモ男女ナリ昔
男トモ瓊ナリ女ハラカヲトモハ伴ナリ以故ニ題目ヲ不
書也童問云以義代不心ゆ一切ノ經論書籍物語皆
其心ナシトモ題目ナクハ定事ト普通ナリ今家ニ題
目畧之事深心ナレハ如何答云實ニ餘六本
体ヲ替フ為畧之ナリ

一

昔男トモ誰人哉在立中將葉平也父平城天皇
弟ニ皇子阿保親王ノ弟也男母桓武天皇弟ハ
姫宮伴豆内親王女一子也如比ニ宮ノ子ナシトモ
賜在原姓ヲ四位殿上人ニテ元正ニ條立原曰原名ツ
奉通伴瓊升宮ツ奉嫁之ヲ為自他ニ根柢ヲ
昔男トモ書ケリ初冠トモハ元服ナリ葉平十六ニテ
美和七年仁明天皇ノ内裏ニテ元服セシラユナリ十
歳ヨリ東寺真雅僧也ノ弟子ニナリテ九重弟一美
童ナリ童名萼奈羅奈良京春日里トモハ今ノ奈
良ナリトモハ又キタルトモ最幽玄トモ義也

新樂府云雲濤煙浪最深處

伯撰十一卷云婁姝被中靈鬼變生宗娃麗姿

珍分暮外漸近觀白粧艷色正幽玄

心高樂國王會考帝之内裏至上宮トモ宮妻

政殿中鬼變ノ暮ニシハ程ニソク午テ美女ト現レテ
有リキ終ニ皇后トナリテ王子誕生セリ位ニ付テ青
角帝ト申キ青角ノ頭ニ生タリシハ青角帝ト申
ケル也サレハオノメ井ツリト云ハ幽玄ニヨキ女ト云ナリ
利仙作世ノ内女ハラアラト云ハ少納言大浦紀有常
娘姉妹ナリ姉ヲ阿子妹ヲ王子ト云ナリ
カ井ニミミケリト云ハ恒間見書ト云我アリ是其
非ス嫁ノ心ヲ云也万葉集

天命尊石命尊大和鳴尔用真見始勢
初氣

コシハ伊弉諾伊弉册ノ日本國作カシツニシ事ヲ
ヨメリサレハ交接嫁ノ義ナリ

フルサトニト云ハ三義アリ一ニ葉平奈良ニテ生シタハ
フル里ト云ナレハ二ニ奈良漆ノ上郡布留郷ナレハ
布留里ト云フ三ニ京ニテアリシハ平京ニ移タレハフル里ト
云何義ニテモ有スレハイトハシタヤシト云ハ半ト書ト
云フ宮仕人ニ中間ナレハシタヤシト云事アリ其心ヲ
モテハシタヤシト云義ニアラスコレハ至テ好シ云ナレハ

政纏第十八云

上陽玉妃於十六歳ニ始テ奉内入ニ廻季略
帝雲質容元藤心花用

心上陽人十六ニテ玄宗ニ被石入内帝雲ニ略トハ御門
侍惠ヲ蒙コトハ秋ヲケレハト云也サレトニ楊貴妃ニ被妬
空ラ上陽宮ニ被幽閉キ

しノケスリト云ハ一ニ天智天皇御宇玉年ノ峯真中
細言ノコト一ニ錦木ノコトナリ別注ナリカスカノハハ
ノスリ夜シノクノミクシキリシラシスハハハハハ
野ハ紫名所ナリ女ゾハハハハハハハハハハハハハハハ

文集云 顏女寵著如紫麝薰風

イチハヤキミヤヒト云ハ 漢書第八云 漢高祖破四懸
軍ヲ早速張良階下ニ侍ル捨命助命是此大将ノ
行否心高祖肺一陳破早速ナリ 然間張良ハハハ
下命ヲ不惜振年コトハ大将ノヨシトマセシワロシトヤ
セト云也ミヤヒト云ハミヤヒナリトテヤサシキ義ヲ
ミ事アリ 遊仙傳ハ閑貝ト書テミヤヒトヨメリ
是ハ不然嫁シニナレハ史記云

首千國三千之天仙艶得果次以雲母
煉丹竈次以紫蘭屬紅精其術早訖身
比松煙心澄白雲飛落行到茅河遙聚客
皇似群鶴凡于時於江川卒見娃仁首證
士飛下彼嫁見會九意難止三千落浪小船似
飄風

心唐之臺山ノミト首千國ト云州アリ三千人ノ仙アリ
テ照遊君ト云女ヲ空中ツ死トテ見テ愛念ヲ發シテ
其上落重し事ナリ艶メ得果ツサナリニ仙藥ヲ服メ
得仙ニナリ雲母トハ菊ツ云丹竈トハ菊ツ丹合メ竈
ヲ煉合スルヲ云也紫蘭トハハハハハハハハハハハハハハハ
トハ紅ノ香木ノ實ヲ服ナリハハハ海中ニアリテ潮深

蘇ソハシキ本ナリ身ヲ松煙マツノコ比ヒトニ藥ヤクヲ服シメ常トシテニ
松煙マツノコタルル仙術センジュツノ方カタナリ心ココロヲ白雲ハクウン澄スト云ハクニ行ユク
自在ジザイヲ得トクタリ芳河ヨシカハト云ハク所トコロ名ナナリ娃ワカ仁ニツ見ミト云ハクヨキ女メ見ミ
付ツキテ三千人サンゼンニン皆モトモト丸マ心ココロヲ發ハクスルニ彼女カノメヲ上ノボシ落オチ重シハ小舩コフネノ浪ナミ
凡ソトニタリヨクシテ似ニタリト云ハク也

古撰十三卷云 石上イソノカミし丸作シ

ハルニアヒテニヤヒニルノノコニハヤキ心ココロハツシテアリニラ

万葉十九云 田上タノカミ黒木作クニノキノキ

林ハヤシノ野ノニツキヨクフシヤクナシシテニシマヒニシタリテカヒコク
トナラ

二

昔男ムコ業ノ平ヘ奈ナ良ラ京キョウハ詔ミコトノコトシテ東ヒノ家ノニタサタニラス
ト云ハク桓ヒ武タケ天皇ミコトノサカヒ御ミコトノ宇ミ左サ大オホ内ウチ藤原フジワラ少シ作シ美ミ丸マ大オホ細ホソ

藤原フジワラ小コ黒クロ丸マ二人ニヒトツ執使シヨクシトシテ山城ヤマシロ國クニ長ナガ世ヨ京キョウハ移ウツリサシ

タリシ十ジュウ年ネンヲ經ステ奈ナ良ラ京キョウハ由ユルル又マタ同ドウ初使シヨクシニシテ山城ヤマシロ國クニ

シタキノ郡ノシタキノ里ノ都ト定サム然シカド同ドウ三サン所トコロ京キョウナリ奈

良ラ京キョウ長ナガ世ヨ京キョウナリ桓ヒ武タケ平ヘ城シロ磯イソ碓ウシ波ナミ和ワ仁ニ明アカノ

中ナカ代トニテ奈ナ里リ小コ路チニハカククシクモ石イシ定サム福フク人ヒトノ家ノ

カシコフフニアリケレハ家ノサタニラスト云ハクナリ

西京セキョウト云ハク二條ニジョウ大オホ宮ミヤ長ナガ良ラ中ナカ細ホソノ家ノ也ナリ女メト云ハク二條ニジョウ也ナリ

ニ又マタ男ヲト云ハクノ家ノニ義ギアリ顯アキ仲ナカ三サン位イノ義ギニ實ミコトシトフト

書シケリ是コトハ不フ心シン業ノ平ヘト二條ニジョウ后ノト實ミコト夫ツ妻メニアラス

家ノ隆トハ間マ女メ男ヲヒニノメシトク也ナリサレ有リ又マタハレ此ノ家ノニ密ヒソカ

男ヲト云ハクニ負ツ親ミコト政シ要ス云ハク

凡ソト芳ヨシ君ノ靈ミコト主ノ下ノ天下テンカ大オホ見ミ正マサ賢サトウ然シカド而シテ依ヨリ是コト

后宮密夫終於野亭被誅成巨卿鬼

唐靈王ノ時左美相凡芳君ト云人ナリ神門後見ト

メ賢ナシク后呂宅妃ヲ奉祀之間狂和原ト云所

被誅ナリ凡ハ姓芳君ハ實名ナリ

漢書云暴龜密盜天賊入地廬

大乙陳后順子仁明天皇后贈大政大長冬嗣ノ

娘文德天皇ノ御母ナリ

南阿堂本也

セリト云ハ二位大納言國經照宣云其經ナリ

贈播号也 實名也

六

昔男葉平 女二陳后アリタハトハ大内ニケラフノ町ノ

清涼紫震ノ間三川水トテアル河ナリアサキヨメナリ

ハキ入ル河ナリ草ノ上ニシキタリケル露トハ后ノ上ニ葉平カ

思ツカリルシ云也セツ草ト云ト 文集云

女随男如須若草一凡

思ツ露ト云ト 大傳云

延掣之露未盡誰知後妃

延掣ハ梁武帝ノ右美相也后思フ懸奉ヲ年ツヘシ

思ツ云ナリヨモフケニケシハト云事 夜ニアラヌ大和也

云ムシ日ヤクツムノクサノハニカハルツトサケリサシハ

夜ニアラヌ四門ツ固ツ云ナリ

漢書云漢王城閉軍兵不通考范難長終滅

心ハ考范軍ヲ殺シテ高祖トツカフツト三年サシト云

高祖ノ閉城ス不破終ニ高祖ニツタシニナリサシハ閉ノ字

ツフケテトヨム也

万葉集云大屋寧行作

我宿者菊賣市有祢登毛四門邊人左右來也

ト云ハ文武天皇御宇大屋寧行御門御後見

トメ榮ヲリシハ四門人左右ヨリ來ツ云ハ菊賣市

ト云ハ長政傳ニ仙宮共ノコトヲ引テヨメルナリ知興ト云

仙人ヨリト未仙シ石燈ノ時山ハ新拾ニ入仙窟ニ也

即仙藥ヲ習テ家御テ仙藥合テ賣シカハ買人

成中其知興ハ四門人ノ來シ極ニ寧行家ノ四門

人サハイトヨメリサテモ知興カヨリシ藥ハ菊水ナリ

サシハ菊賣市トヨメリ門前成帝ツシ事是始也

鬼ノ所トモコラテト云ハ鬼間ノ事也内裏ニ鬼間ク

ラノ間應ノ間トナリニヨリ鬼間ハ先帝ノミツキニハム未ノ

物ヲ取置テ常ニ人ノ通トコト也ナラノ間ハ當帝ノ供

御所應間ハ内侍所供物備ル所也

神サヘイトナルト云ハ文德天皇ヨメノ后ヲ盜シテ御

イカリヲ申シメニイタシ洛ケシト云ハ雲上人走散テ

后ヲ奉來ヲ云リ史記云

秦始皇暴惡銘肝席心良感生拳降塵如

雷電神破雲侍片汁藜走散不絕山野

似兩脉丹又云夫上天下搖動振塵内宮外宮

宮意利釵感宮燒共々煙早誰歎長生不

共々嚴損不悲

秦始皇惡王ニテイカリヲナシテ如風吹塵雲上騷動云

車如雷破雲ナル間雲上人走散云ノ事也

ナリキサシハ今ニ御門ノ御イカリナシハ神崎トイフ雲上
サハテ月卿雲容を散しハ御サフルト云也

スヘラキハ神ミニセハコトウモノイカツクノ上ニイホリ
スルヤモ

ビヤハ四上ノ反ムカ持統天皇ノ花子ノ内裏シ見テ
ヨスルヤトシ御ツイカツクトヨメリ

ラヤナクヒシヒテト云事業平實ニラ箭ヲ帶ル
ニアラス心武クシテ后ツ奉盜ツ云也 臣政傳將軍

記ツ引云 吳越之戰柝篇舟立湖浪ヲ渡宅宣云
兵戦之賢也然而宅没後孝皇教時宅妃入后三年
二九廻之假計貴考兵打拍即質妃艶甚体心
持ヲ箭削武如戰容

心吳王ト越王ト戦之時越王ノ大將軍ニ宅宣云ト云

人一天午死スル術アリキ 彼人死ハ所吳國孝王軍ヲ教
シテ越國ヲ責トス國人大歎ク余時宅宣云ノ娘宅

妃入后ハ后心ヤシクメ計ツ廻ス海上ニ繩ツハリテ
上ニフシシキ屋敷ヲ造テ城郷トス 吳國軍兵不知ク

實城郷ト心エテ乱入ニ皆海入テ死ス 其ヤリニ葉平
心武ツニミヤナクヒ負テト云也

鬼ハヤ一口ニクヒテケリト云ハ鬼間ノ一口ヨリ 后ノ兄國經
宰相ニテアシア見付奉テトリタテニツルヲ后クヤシク

ツホシメサルシクヒテケリト云也
アヤト云ハアヤト云也 西城記云

梁文皇詰善提流支三歲日悲哉朕逢佛教不

修 文記録云 相如野草之卷 喰蓬記年序
忽息悲懷喜

文集三息元常書ヤリ馬相如ト云人周代右丞相
ツリキ宰相都命ヲ撰登ヨリテ岳岸ト云所流シキ
三年アリテ政惠二十卷ノ書ヲ作テ周孝王ニ奉
ハ賢人ナリトテ車ヲ遣テ迎テ賢者臨庭暴恠
去門トノ如テ固シテ天下ノ政ヲ心任セシム息
悲懷喜 ト一ヘリ アシスリト云コト必アシシスラ子トモ
深歎シ云ナレ

文選云 市女足走其思不尽

七

イセシハリノ人ヒト云ハ男女ノ契ノシハリヲ伴観シハ

リト云也アハイトハ業平ト后トノ交也

文選云 仁儀礼智信也常者交牙不隔四
月交雲外語二三更後雨中聲

ナミイト白クダツト云コト波ト浪ナリ白クトハ戀渡アラ
ハル心ヲ白クト云也 文選云

漢武戀じ婦如在身海中 小鳴渡波常戀
没難海

漢武帝李夫人ニ別テ歎詠し事ナリ

万葉云戀泣渡之波 深海伴作良波我亦見
目カツヤシ

白ヲ顯ルト云事 陰土閑扉白勿人朋

六帖云

戀ニナク^ハ後ノ瀧ノ白糸ノヒロクヤ人ニシトイハシ
トヨメリ

イトミケク^ハ乃方ノ色シキニウラハシクモカハ浪哉
スキ行方ノ恋ト名^ニ離タテニツリテスノナルシヤ也
ウヤミトハ恨疾ナリ

文選云始恨疾嬌夫送歳

カハ浪哉トナクナシタ哉トヨメリ後ツ波ト云フト同上

毛詩注云照若去胡國天遥覲感宮之雲居

後漢^{ナリ}謝^{ナリ}安^{ナリ}石^{ナリ}

八

昔男業平東方行ト云ニ条后御フト依東山開
白忠仁云ニツケラシ行ツニトモトスル人ヒトリフタ

リト云ハ紀有常平定文業平同意之御不實
アリテ開白須アラシ也サハ共ニ行ツヒトリフタリト
イヘリ異本ニ只有常ナリ也業平カミシクシテヒト
リフタリト云注セリ

シナノ國トハ實シ信乃國ニ非ス業平流トナリシカハ
解官セラシテシナノ成クタルカ昔シケハ品若ト云ナリ

信乃十九年ノ夕ケニ立燧ツキク人ノミヤハトカメ又
バヤノ心ハサト云ハ后ノ由コトノアラハシテサニナルシ
云也夕ケトハ業平ニ条后ヲ恋タテニツル思ノ如山ナ
シハ夕ケト云ナル也

文選云陵主念生高高像雲伯后之恨壞重

錢帶霞

心ハ陵帝ノ御門下ニ國ヲ奪ヒテ思ノ高成高ト
イリ伯長ト云人ハ漢帝ノ長トナリシ御門ヲ奉儀
若ト云所ニ錢ヲツヒキテ國ヲ奪トシケル西門
軍兵ヲツカハシテ彼重錢ヲ破テ燒ケシハ如霞煙
ノホリテシ之ナリ又思ノ成山ト成煙ト云コト

日本記云

欽明天皇御宇駿河國ニ作竹羽ト云ツキナリ作
竹ト云竹ヲ作テ賣シ人ト也或時竹中ニ行見シハ鶯ノ卵
中ニ金色ノ卵アリアヤシミテ取置テ七日ヲ經テハ
美女トナリスリニツラニテ光アリケシハ赫ハ姫ト
名ヲ爾時駿河國ノ司比事ヲ奏聞ス御門宰相
金丸ヲ物使トメ被シ姫ヲ召シ女御ニ成テケリ三年シ

姫ハ此ノ我ハ是ハ天女也君ハ昔ノ契アリテ今ハ夫書トナ
シリ既ニ縁盡タリ是ヲ欣見シ御門ノ司比事ヲ奏聞ス御門宰相
リ姫ヲ召シテ後御門ノ大ニ歎シテ見ノ鏡ヲイタハテ
臥シテハ心思火ト成テ鏡ヲ燒クハハ火ステハ石浦余
時ニ御命議メトハ鏡ヲ本所ナシトテ駿河國ニ送
置テ其鏡ヲハアリテ留シ山ト成シリ又煙ニ不絶
立ナリハ思ハ心トナリ戀ハ煙トナルハナリモ其心ナリハ
ツキコト人ノミヤハト又ト云ハ葉平ヤル思ヲスルハア
ナタコト人ニトハ父ト云ハナリ万葉ニ遠近人ト
書ケリ

九

東方ニト云ハ開白許ハケテ同上阪トモトスル人ヒトリ

フタリ同若ニシハノ國ト云ニ川國ニ非ス業平ト志深
リシニ原之原ハ奈三人ノ后ヲ奉恋心ツ云也心ツ水
喰フル也川ト云ハ水ツ入器ナシハ川ト云國ハ昔ナリサシハ
三川國ト云ハ八橋ト云ハ實ニ八橋ニ非ス八人ツ恋ワル
也サシハ八橋ト云ニ原后正二位中納言贈大政大臣長
良娘清和后陽成母高子深殿后白河用白忠仁云
一位大政大臣良房娘文德后清和母明子四原后正
三位氏ノ卿中納言行平娘清和后貞數親王平姓
ナリ伊親ト云ハ伊親守経蔭娘継子深殿共束内侍
正二位上西三條左大臣良相娘在少将滋春母業平
シハノ妻小邸小町中羽郡司良家娘前升宮恪子
内親王文德母深殿后有常娘少納言利ノ大輔有常娘
已上八人異本ニ深殿二條心宗前升宮ツ除テ三條
町惟高ハ子母平中将定之文妹業平妹大立奈后
順子仁明天皇女御冬嗣是ツ入タレ本ナリ是ツ
八橋ト云ナル也

洲芳杜若袖心長

沙暖鴛鴦鋪翅眠

カシイヒト云ハ疲飯トナケリ ツツノ心ト云ハ空ヲ恋病ツ
云也ツツアテテレケリト云ハ二條后ノ御坐所ハ月卿雲客
ツツナントノミケキヤツニハイヒロコリテシハスハ通ハキヒニ
ナキツ云ハトトツツタト云事

文集云芥菖氣榮懸木増力得登天長侍后
榮茂随王進位喻舉高官

云郷殿上人ヲツタト云十九（一）古老傳云葛藤無自力依
他契榮（二）カテトハ王ノ一門榮（三）也

文集第十八卷仙道術記云壺云（四）中撰乾坤
服藥長房乘竹登青夫王高引鶴（五）毛白
雲嘉至殖花木芳香供世尊（六）名師練行之
切豈非德年（七）

心壺云ト云仙人ハツホノ中ニ（八）四天下（九）ヲ撰テ其内ニスミキ
長房竹（十）乘テ天漠（十一）至ル王高ハ鶴（十二）乘テ復心（十三）峯
來テ月前ニ望（十四）吹ケリ声ハ鸞吟鳳唱メ聽無拍子
多ハ似霓裳礼序ノ声トテツバテラメホ（十五）ワラノ鳴ヤタ
テ聞ハ拍子調（十六）カトシ舞樂ノ時乱序ノ音（十七）似ツリセ
嘉至ト云ハ雲州ノ山門ナリ仙（十八）好テ陵頭（十九）山上（二十）仙人

ニアヒテ仙術（二十一）同ニ仙卷云天（二十二）仙（二十三）得ハ國ニタテルハカラス
早地仙（二十四）ヲ得テ國ヲ可持トテ教テ云紫桂（二十五）ヲ取テ香燒
カテテ（二十六）九重（二十七）殖テ其花（二十八）ヲ毎日世尊（二十九）ニ供スヘシ九年（三十）仙道
ヲ得ヘト云王（三十一）取テ如教スルニ地仙（三十二）ヲ得テリ其ヨリ王（三十三）一門
花木（三十四）ヲ殖テ仙（三十五）好（三十六）也依（三十七）之都（三十八）ヲ花洛ト云王（三十九）ノサカヘシ
カヘテ（四十）ノ本ト云十九（四十一）ヘシスソロナルメシ（四十二）ミルト云ハカラハメシ
ミルト云ハ文集云秦主武主戰幸日秦始皇ト秦（四十三）武主
兄弟（四十四）ノ合戰（四十五）ヲ也（四十六）陸行者ト云ハ八條宰相清經入道（四十七）覺
大師（四十八）御弟子長良子二条后弟法名蓮（四十九）寐業平友
達（五十）駿河守高經家行合テ業平（五十一）ヲ教訓セシナリ（五十二）業平
惠道（五十三）ニテハ如ソト云ナリ高經ハ二条后兄ナリ（五十四）留士（五十五）ニ
ミルト云ハ實ノ留士ノ心（五十六）ハアラス清和御門（五十七）ニ申也（五十八）山門（五十九）

五位ナリ日本第一ノ高位ナリ 富士山ハ日本元双ノ山ナリ故
クトナリ申也又沙門ツトニ事 文集云

万騎主位高山又山峯重ク作天月石心ノ忠
化風祖師迹是深海又海壘ク得乘貴洞報
賤侶

是ハ白樂天東宮又子士ニテ沙門ノ懸ヲ不蒙ト恨テ作
賜ヲリ也

雪トト白ト云ハ貞觀十八年五月晦日沙家アリシ申
ナレ

時ト云ハ子イットチアノクニタラニ雷ノフルラ

ハヤ心持カ家世セナリ共体ニシテラセタハ子ハ何ト云
ハトヨメリヤノニタラニハ子時在志時藤原長元

中納言惟凡ホツ始ト月郷雲宮トニタラ龍后スル云

殿上人ツ星ノ位ニ事 文集云

楊貴妃依有天朝之寵楊國忠速階星
林ノ位雖然為安祿山被誅

貴長房記云

緋告仕片帝屬早姓之民登星位何
忽得仙有壽久昇雲德用哉

ハ貴長房仙得テ忆ノ詞也ハホ皆片ト星位ト云

万葉云

天河雲ノ波夕月ノ船星ノ林ニキキクサシ又
ハヤト武王天皇惡王ニテ毎日人ツ死ス事アリ高
木ニホセテシタニ火ツ燒テ振落テヤキ致ス今時片ト

命儀メ知方月ニツクテ致シ奉ル事ヲヨリ是ニ
臣ツ日星ノハヤシト云ナリハハコニ倉ハヒエノシツハ夕午
ハナリナサチアケタラシホトニ云ハ業平殿上人ナシハ
我位ヨリ中門ノ四位ニテハ大代ツ重上ツハ喻ラ
後六位正六位後五位正五位後四位正四位殿上人
後三位正三位後二位正二位後一位正一位殿上人
一品二品三品四品親王位中宮后之皇后宮國母
春宮太上天皇已上サ
代ナリ

異名一云

後四位下 後四位上 正四位下 正四位上 後三位下
後三位上 正三位下 正三位上 後二位下 後二位上
正二位下 正二位上 後一位下 後一位上 正一位上

春宮 中宮 皇后宮 皇太后宮 太上天皇共

并シノ國トシモツサノ國ト申ノ云ハ良房或藏守ナシハ
國ト良房仲子長平ト總ナシハ國ト云フスミタ
河トハ法勝守ノ方角田里ト云ヨリ流シタル河ナリ
ソノ河ツ云也

用白ツ渡守ト云事 臣政傳一卷云

三云之侍者護王位不任行渡守倫引船如不共
三云トハ左右内大臣ツ三云ト云也今時用白照宣云
清和御門已没賜又陽成御門ニ仕テ世ヲ渡ト業平
勸御也船トハ陽成御門ニ申也御門ニ船ト申ス
事 史記云

人之主改賢志直惠波流外千万壽貴賤

渡世能妙故号船筏誰不致

本云船筏不致

負觀政要云

君者如船長者如眾能浮船水還顯船之能隨云又用君

サハ神門ツ船ト云又神門ノ崩玉ヲシ日モクシメト云

事 文集六十四云

帝日岑没乃侶周深云雲谷落百官歎厚

周燕王カク賜テ陵頭山ニ葬シ奉シ心ナリ

古今云

深草神門ノ由忌日ニ文倉康秀言深草神門ト仁明天王ノ御事也

草子モ霞ノ谷カケカクシテ凡日ノクシ今日ヤガ

神武天皇神没時第四王子小田達白皇子作

アキラケキチルヒモクシメ今ハ我ヨルチラス月ノ孰ツ

ツノニト思ヒケルヤナ

ハケシハ父ノ王ニシクシ奉メ母皇后ツツノミ奉ラント

ヨミ玉フニ陰陽ニツク分テ日月トス晝夜トスハ陽ハ

日ナリ晝也陰ハ月ナリ夜也

文選第四云竟日暮舜凡和ナリ

又云卿ツ月里人ト事ハ三槐九棘蓋ニ朝雲ト上

カテ暮ニ月ニ由テ光ハ採与日續テ照塵ト又ニ槐

云者又片名ナリ九棘ハ大綱云ナリ朝殿上ニ昇テ天

ト政ツ定メ夕ニ月ツ待テ私宅ニ由リ日光ニ付テ民

哀ムナリ故ニ月里人ト云也

古撰集人丸ナリ

カケキヨニ長ツアハシツアヒリアヒマ日ツク照メ月里

入殿上人ツ雲林ト云事

百撰ナリ云

之方ノアヌノヌアノミノシケシハ雲林ハ今ニササリ
ハ小久君家持中納言トシテ門ノハ又ノミアツリテ榮
ツ見テヨメリ

白キ鳥ノハト足トノ赤アシキノ大サトハ陽成沙門ハ
脣赤メ紅衣精ト云袴ツメシタリサハハト足ノ赤
ト云シキノ大サトハ漢高祖世ツ取テ百官ツヨロ
シクナシハ司官ト申テ彼王ハ面一尺二寸長ハ
尺ニテ坐シカハシキノ大サト申也

漢祖王諱司官ト龍顏表ハ而眉頰生月

秦武帝字爰仙周馬尅崩而額疊涂波

高祖父大云沙門ハ花見ノ為龍門ノ堤ト行ダ

トシ俄空クモリテ黒雲后ノ上ニ霞ハ人出テ事ヤ

シ龍トテ嫁テケリ即懷妊シタリ其子高祖ナリ

左右ホラニ龍ノイロ生タリ其ヨリ王ツ龍顏ト申也

秦武帝父秦惠王ノ后ハ夕言ニ西宮ニ仙乘

馬来トメ人ハ不見后ツ嫁メ懷妊シテ生奉ル子也

頭馬耳ニアリキ遠声ツ聞事一千里外傳之極

百歳成極ト時馬耳破落テアリシ事ツ云ナリ

凡沙門ツ馬ト申ス事 文集云

朝今持晨翼遥翔雲路天下果自在老如鳥

名ニシハハサトハハ都馬我思フ人ハ有ヤナトヤ

予心ハ陽成沙門都ツ取テ坐シハミヤトリト云ナリ

我思人ハ三条后沙母后ノ事知リ玉ヒタスハトハトヨメリ

天子コソリテヤクト云ハ可秘事ノ舟中ニ人集テヤクト
云義アリ實ニ舟上陽成御門ナリ舟ト云ハ同前コソ
リテト云ハソクシテト云也五音ニ通テ云也

漢記云 秦之恐亞皇長一産不居
秦始皇養兄ノ周ノ亞皇ニ思テ云也サハ御門
實ノ父ハ業平ト知食ノ同恐如フ心アリナリ
ナクト云ハ長シカリタニラシ云ナレハ秘事也

十

アテナル人ト云ハヤサシ好人ナリ 文選云

昔魯州之當人替身商人久生胡氏
負觀政要云万騎主賢而改當

ナホ人ト云ハ麻人ト書リツキ人ナリ

史記云麻人者排他共自德

長良春秋魯記云予元是清州麻人
コソナ子ト云ハ唐物格云漢明帝ノ時素伯ト云人
道州王ノ智成云ニ彼國ノ習ニ智取云時始
金ツ付ハ智金ト云ナル也

是ハ有常衣藏守ニテ有シカハ大和國伊呂麻郡
ミヨシノ、里ニヌメハ折ツエテイルノ郡ミヨシノ、サト也
ケルト云トモ注セリ 異本之有常衣藏ちニト向奇
業平ニアハセシトテ娘ヲ具シテ衣冠國へトケルイルニ
ノ郡ミヨシノ、郷ニ家ヲ作テ居タリシカ其ヨリ母カ
京ナ業平ナ故ニバケツヨミテラセケリトモ注セリ

シノモノアリトハ田^タ田^タ鷹^トナリトテ夫^ハ中^ノツ^リ別^テ桐^ノ元
祭^{ナリ}安家^ニ田^面祭^ト之^ハ賀^家ニ^テ別^祭夫^祭ト^云ハ
祭^ニ鷹^ヲ取^テ千^ヤノ^ハニ^ツキ^テ祭^シテ^ララ^ニツ
ナ^クニ^テ離^ルキ^ニ男^シノ^第ニ^テ作^リ相^スキ^シノ^柳ニ^テ作^ル
祭^文誦^テ奄^離ノ^法向^高ソ^ハト^唱テ^ハ鷹^ヲ
打^合キ^テ男^方向^立テ^テニ^テサ^シハ^祭ツ^シテ^ハ鷹^ニ
君^方向^キテ^行テ^下ヌ^リ也^事義^ナシ

十一

東^ノ方^ノ男^ハ葉^平共^達ハ^衆議^橋為^基 忠^務イ^ハカ

十二

春日野^ニ武^茂野^跡ト^云相^逢ハ^彼野^ニ武^茂塚^ト云^ハ
り^今神^志ヒ^ノ森^ニ是^{ナリ}日^本記^云文^武天^皇御
宇^ニ中^納言^義作^胡丸^ト云^ハ人^武茂^守ニ^テ多^ク年^大ニ^侍
シ^テ奈^良ヒ^テ俄^ニ死^ス同^春日^野中^ニツ^クム^後彼^ノ
墓^所動^テ天^下ニ^人ヲ^愁病^ス余^特人^ニツ^キテ^云我^武
州^ノ執^心アリ^被國^ニテ^死ト^下思^ヒテ^死タル^事如^ク云^ハ
ナ^シ我^ヲ武^茂死^スヘ^シテ^ト云^ハ余^特宣^旨ツ^テ下^ラ後^墓ツ^ク武^茂
塚^ト云^ハ依^ク其^邊ツ^ク武^茂塚^ト云^ハサ^シハ^古今^ニ
春日^野ト^リハ^物語^ニ武^茂塚^ト云^ハ三^千九^百人^ト云^ハ
滿^來人^{ナリ}道^來人^ニ非^ス男^ヲツ^クト^云事^ハハ^ナリ
見^{タリ}喜^道ニ^女ヲ^書ト^テト^云男^ヲモ^云キ^ニラ^ソ

万葉云

遠^津人^松浦^小夜^婦夫^恋你^袖普^紫余^里ソ^ルハ^心
是^ハ松^浦婦^ノ夫^入居^ク時^居方^ツ袖^ニテ^ニ子^キニ^シケ^リ

ソシヨリハハツ松原ト名

拾遺ナリ云

今朝ハミツモハシ人ハトフテミツニキヤノ上ハイハ
ハナクハ和泉或ルカヨヒテ道總人約言ク許ハヤルナリ

十三

武苑十九男ハ業平武苑守有常許テハミク女ハ
原后武苑鑑事日本記云昔男女思ハシテ武苑
國スミケリ男京へ行トテ歎見テアフミシケリハ純
シヤツキテ本トナリト云事ハ松云サシモナキ義十九ハ

十四

フタヤケト云ハ小家鶏ト書リ田舎ツヒナト云事ハ鶏
四開板ト云事ナリ 梶坂龍田須間鈴原ノ開ナリ

天智天皇御時ナリ祭同シ

万葉云

天下田舎五十年旅宿此天都キフシワスラシヤリ

男シセナト云コトハ 万葉云

今夜来夫不由明彼久福待毛古曾寸礼

十五

陸奥國ト云ハ長良家ツ云ハ陸奥國守ナシハ上陸
ミナノ國ニ同シナリサカナキト云ハ元礼ト云云

孝經注云仁儀礼智信之五常世人行

十六

三代ノ帝ト申ハ淳和仁明文徳時ナラト云ハ榮花ツ

文集云ニ云過ナリ特榮花既開ナリ

屋成有常書、良門娘友達、業平キツタリテ
ノキ、有常年ツミエノキ、業平コシヤコノキ
有常姑ヤラノキ、有常

十七

足下ト云、有常、アタナリトノキ、シヨム也、也、業平

十八

クシナ井ニ句フハイツラノキ、小町也、事、業平

十九

子達ナリケル人、伊賀局アコウミノヨソニミシテ、ノキ、
業平、又男、清和御門、易、光孝親王

二十

大和ノル女、有常娘、コシ初冠ノ時ナリ、ヨサツメノ
キ、業平也、事、有常娘、春紅葉ヨム事、ハ紅葉、ハ
非ス、紅葉、色、ナリ、ヨムナリ

古撰云

春雨、津氣天裁増、染ん、春ノ紅葉、色ノ開ナキ

二十一

イサリナリコトニツケテト云、論也、文集云

縦詠、千秋月、樂世事、北露消、不歸、縦折、
万春花、經榮葉、西風来、去論、サハ、イサカヒ也

イテ、イナノキ、ハ小町、思ヤヒナキノキ、業平人、イ
サノキ、業平、今、ハトテ、ノキ、小町、ワスシ、草ノキ、業平

ワスシ、草ト云、義多、一、ハ、ハ、生、草ト云、ハ、壁、草、生、ル
ホトニ成、昔住、ハ、事、モ、ワス、ラ、ル、也、二、ハ、墓、生、草、ト

草生ルホト成先人ノ事ニ漸ワスル也三佛ノ
傳弟子ニミリハントクカ名ヲ書テニヒテアリキ
事ヲ云ヒ四ハ萱草ヲシ也 文集云

桓帝隔切幾日殖萱草ニ愁歎

大唐桓帝使ト云シ人アリキ死ノ後其子父ノ事ヲ深
思テ餘心苦シアリケシハ何事ヲ思シ忘ト云即殖テ
見シハ思ヲ忘テケリワスシト思心ノ事ハ業平ナリ
ソラニテナリ小野小町

廿二

シキナカラノ事ハ小町 易平深 殿侍 アヒミテハソノ事ハ業平

廿三

并本ニ遊ラトモ思ハ業平女ハ有常娘良業平ノ親
合ル女源右大ト能有娘有常娘親人ニセトス男
ハ平定文ツイツノ事ハ業平カラヘコシノ事ハ有常娘

仙家帶雪人不來山水調誰不語

ツト云ハトノハタル義ナリ共ニカテナリシカハ云也 問之秋
妹ニサレニトヨメリ男女交會之媛妹ト云ヒシハ共ニ
カ歳ニシテハ嫁不レ叶如何 答云陰陽記云男女必ス
七歳ニシテ一和交遊有道雖然心上カ歳ニ知陰陽之
徳又ホクノ如ク相ニケリト云ハ終ニ夫妻成テ子ヲ儲テ
リシ也左来門伏棟梁僧都業遍ナリ何内高安處
高安主丹波介佐伯忠雄ノ娘ナリ忠雄ハ富有者也
盗人ヲ白波ト云事 文記録云

周帝雖賢白波綠林盜天賊比國

白波ト云し盗人ハシニナト現メ船ツクツクヘシテ賊ヲトリ
緑林ト云盗人ハミトリノ林ト現メ人ノ物ヲ奪ヒ也

後漢書云白波緑林之類八百餘黨踰海陸山
奪州賊而貴云

キニカアツリノ子ノ君ヲトノ子ノ忠雄娘古子ノ諱

廿四

子ノロニ云ケル人ハ嗟哉天皇弟曰伊子常康親トナリ
アラツニノ子ノ有常娘アツサニミノ子ノ葉平アツサニミ
ヒケトヒア子トノ子ノ有常娘アヒシモハテノ子ノ有常
娘ニ張ララツニ春ト心得ニ春ヲ三年ト事奉ト云云
年不來元春ト不來元春ト以春為年ト

廿五

アハトモイハサリケル女ハ小町林ノ野ヲテキ平ニルメ
ナキノ子ハ小町アキノミサノワケシアサノ袖ヨリモトヨメル
ハ持統天皇御宇櫻田利名中將女ヲ思テニキケルカ五
朝空ヲ由シヲサノワケシ朝ノ中將トテ物持アルソノ
其袖ヨリモアハテスル袖ソヒ午ニサリケルトヨメリ異名ニ
天武天皇ノ侍時弘雄中將トナリ

廿六

カ際ワタリナル女ハ二茶后ソヒツリケル人ハ深敷后ヲ
モホヘスノ子ノ葉平

廿七

一夜ニキケル男ハ葉平女ハ二茶后我ハツリノ子ノ二茶后
水口ヲテ子ノ葉平

廿八

好色ロコロミ十九女小町おしりい十九女大河惟章チカあき成チ
行よりトトヲヤリノシテ一葉平

廿九

春宮ハルノミヤ女御メミハニ系后ニ花賀ハナカゲハ后ミコ廿女ニ御賀ミカゲナリ花ハナアラス
ナリ葉平

三十

ハツチ十九女ハニ系后ニアノコトハノシテ一葉平

廿一

宮中ミヤナカ上ノ滯ト殿ノ后ノ御賀ミカゲハ宮ミヤナリヨシヤリサハナナラシ
サカミントム人ハ伊賀

ハ本ホナリハ續ツ万葉マンヤハ卷マキナリ石上イソノカミノ作

忌乃イミノツラサハイアミ命ミコトノミコトアラハヨシヤ葉平ハノサカミ

改度カヘド調和テウワ和世ワセ无ム忌イミ

ツミモナキノシ葉平ハシケハトムハ呪咀クシ也ナリ 古撰コゼン云

ナヒヨトシ人ヒトノシケハハ心ココロ姫ヒメノシトロラルル林ハヤシノスエニ十九女

子コヲム女メハ滯ト殿ノ后ノ

廿二

昔物コトモノイヒタル女メハ系后ニ 長年ナガトシ伊賀イガノミシハノシ葉平

廿三

津國ツクニハハラノ郡ノハ有常ユツナ娘メノ所領シヨウ也ナリ母ハハノ年トシヨリ攘得ジヤウトク
タル也ナリアノシヨリノシテ一葉平ハコモリエニノシテ一有常ユツナ娘メ

廿四

ツシナリケル人ハ葉平ハ妹イモハツチサナ女メナリハエニノシ葉平

ツモナクテト云ハ面元ナリ

廿五

心ミテアラテ夕ハタレ人ハ二条后玉ノシノシ業平

廿六

同トシケル女ハ心柔后 行平娘 首世ハミノシ業平

廿七

好色ナル女ハ小町我ナラテノシ業平ヲタリシテノ
シ小町シタヒモトニ事ナク又ニ

延岩望之恨解带有形見宗教司之歎秋
鏡有仁心

コハ延岩望ト人好女ツ書ミタリケリ漢明帝是
女御ニメサル宣旨ナシハ元カ既離別ニ付中ツヒカテ

之我汝別ハセロツスラハカラス必可死スノミツクハタニ
テ午時ト南殿ニイヨ而瓜ト成テ汝吹テハ帯

解ケ我相ト思ハトテ午ノ皮ツハキテ帯ツミテ女
トラス物束ノニニ午時ニ相ケル也其ヨリシテト帯ト

ニ事ナリ日本記ニ庶嶋大明神火多海ツ書ト
セシトキ帯ツ契ニヤシリハ心ツクヌルシ

エニキノ道ノハテナルヒタ午シヒノトケヨカシニ神ノ
廿八

キニニヨリノシ業平ナラハ子ハノシ紀有常
廿九

西院御門淳和天皇第三姫宮高子内親ト貞観
元年六月二日死スルヲイテハイナハノシ業平ト

予ハ昔年於^ルシテリト^キ春日^ノ高^ル井^ノ有^ル市^ニ之^シ

四十一

女^ハラ^フラ^ニ人^ト之^者者^ト姫^ノ姉^妹也^トヤ^シキ^男ト^云呼^フ
指^申納^メ之^者人^ハ四^男伴^ヲ引^キ小^野夜^人妹^ト又^ハア^テ
十九^男ハ^書平^姪ノ^男之^紫ノ^シハ^書平

四十二

好^色ト^シル^女ハ^小町^ハカ^ラフ^コノ^シノ^シ業^平

四十三

賀^陽伊^子ト^申ハ^桓氏^才ニ^四子^ノノ^メハ^三仕^女ハ^伊氏^又
ヤ^男ハ^書平^弟ノ^弟ハ^書平^トヤ^ナラ^ト云^ハ汝^泣ナ^リ
問^ニ都^トシ^テ悲^ム事^ノ何^カ答^ハ云^ハハ^書平^之色^也

毛^詩註^云郭^公去^南壽^思旧^婦待^テ命^人月^鳴

郭^ト云^者郭^國ノ^王ナ^リ天^皇ノ^弟也^ト歟^王

シト^サシ^テハ^水國^ニ來^リ死^ス其^後考^ト成^テ反^三月^ハ
ナ^リ仲^南國^ハ移^リ暑^シ而^同春^秋冬^ハ入^テ温^氣
待^長ハ^里ハ^トキ^イリ

漢書云胡馬嘶北風越鳥栖南枝

漢^皇胡^國シ^テ打^馬ヲ^取テ^來シ^ル北^風ノ^ケハ^馬ト^キ
也^ト郭^ト云^ハ南^州ノ^鳥ニ^テ必^南枝^ニ栖^テ作^ル也^ト郭^ト云^ハ
南^國ノ^王ノ^名也^トハ^外種^ノ名^ニナ^リハ^書平^ト云^ハク^キラ^フ三^三シ^テノ^夕ヲ^サハ^列道^度幾^ノ壽^也ハ^書平^ト云^ハ
馬^六ハ^書平^ト云^ハ忠^婦鳥^ハハ^書平^ト云^ハ三^三シ^テノ^夕ヲ^サハ^列道^度幾^ノ壽^也ハ^書平^ト云^ハ
云^ハ反^三月^ヲ期^スシ^ハ三^三シ^テノ^夕ヲ^サハ^列道^度幾^ノ壽^也ハ^書平^ト云^ハ
ヲ^略セ^リハ^書平^ト云^ハク^キラ^フト^云ハ^書平^ト云^ハ地^獄ヲ^ナリ^サハ^地獄^ト

昔ナリ娑婆ニ入リ成テ来ル時ハ樂ナリ昔由來ニ故ニ
昔由來ナリト云ナリ 後頼ナリト云

アノミルヲセノサ心ノ秋カクシニシホツクナリト云クキヲ鳴
いふハ地獄ト娑婆トニ世ニ通馬ナリニ心ナリト云
云々いふナリニ世ニ通スト云

文選ニ部ニ通ニ世愁苦未息

万葉之昔古曾士曰ク長名村造礼耕田早來
子鳴度名留

いナリ心田ヲ作シト催ス馬ナリサレハ過時不獲トナリ
ト云々ナリ曰ク道度幾少 地藏十輪經云

油等無常盡觀身於此列 道度幾少
サレハ空常ツ昔ル者ト云 日藏上人曰ク

伊門ノ西物塔アリケリト傳記アリト云

早利部ニトテ二人アリケリ 早利ハツツシメ井ナリ賣ケリ
部ニ是ツトヒテアツヒシナサスシテ共ニ死ス皆者ト生ツリ

サレハ其ツツノ代ツトテ部ニツツヲ福人ノ名ツ我名ニ
啼ナリホトキスハ今モスニ部ニ鳴以ハモスハナリシテ

云ト云部ニ儲トテ万ノ虫ツ木枝ニサシテ置ト云ナリ
堀田鳥トモナリ 万葉云

耕田早來子鳴名留夏跡心違余波歎殖田不
致人哉有流ん

六三時鳥付ツ知テ来シハ云々セニ悲婦者有ツル云々
ハ三ツナヒ子者地獄ニ童ニアハ云々 万葉云

何者イヤニ鳴ラシ童子ナリナクシヤミノ月月ノ夜

名ノミツクノヤ、伊勢ノホリホニツド云事

古撰之田邊福丸

夫結多木士田之田長野身尔有祢登不相
悲媿尔一夜毛

イホリト云ハ夫ニトナリ付ちハ男ニラフ事アリニ繁キ
ホトニ響ミ嫁ナリ万葉集ノ注見タリイホリシホキヤ

業平

四十四

アカタハ行人ハ有常甲斐守ニト也アカタトハ遠方
ト書ケリ万葉云

大和鳴者神代津惠未用之遠方男造始キ

カテ初ヤハ業平ワシサハモナリト云事

知テトハ我ニ衰ナシトヨメリ

三教指歸之隣有衰曰不春里有殯衛不歌

四十五

人ノ娘ノヤシツクハ忠仁云弟西三奈右大臣良相ノ娘ハ
子ナリ陽成ノ女仰ニタテントセシカ死也貞觀十一年
六月ナリケル世又クシラツキニ首ヤ業平

四十六

シルハシキ友ト云ハ有常シツタリ文ハ甲斐國ヨリ有常
ノホスル也メカルトモノヤノ業平

四十七

子シコロニイカテト思フ女ハ伊勢具本ニ奈后シホス
サノヤ伊勢具本ニ奈后シホサトナラソタテ

平葉平也ナリ

四十八

馬餞セントラニシル人ハ者常ニ男ガ將利貞イニシ
知ノヤリホ平

四十九

妹ハツクサノ女ナリシカシケヤルト云ハヨシト也 文集云
秋聲貝靈者常蒙天容之愛心曲語恩者
鎮得鬼魅之罰

ツラワカミノヤ平 妹也

五十

鳥ノ子ツノヤ平 葉平アサツクノヤ平伊親也 鳥ノ子
吹風ニヤ平 葉平水ノ子平伊親也

平葉平鳥ノ子ツノヤ平

陳鴻報恩記之恩至恩父母之恩般以吟子
空上百数百度重其恩難報德至德師与
德報牽泥牛水中千度千人乘其德難謝
心ツヨメルヤ也

水ノ子ツノヤ平ト云事 日本記云仁徳天皇時橋
政行云人アリ右大臣皇女丸娘ヲ思戀テ云ケシハ女
云ク我ニ志アラハハ前河ニ毎夜ニ来テ数ツ可書百
夜満テ逢ント云フ男毎夜ニ数ツ書ニ更跡ナシ百夜
至テ女相具メ見ニ数書事一ニ不見見其時女ニク
志ノ無シハツノ数ハ見テ下ニテアハサリケシハ男

サリトモトカスカク水ハ流ニナシ君ヤツラサハツラサノミ

中ノミニケリトモ見タリ
ふいぢノミメテ、女達ニケリトモ
リ

四十一

前裁、菊殖所ハ通照僧正花山家ナリ
シハハハ
葉平

四十二

人ノモトヨリカサリチニキトモハ
惟高親之ノ御所ヨリツ
カサシケリ、^{ヤサリキニキ} 飭第卷トモハ
五月之日有茂社ハ家
ヨリニヒラスル第卷ナリ
也名ノ系ニテ結ナリ
ヨヤカ
リノキー葉平

四十三

アヒタキ女ニ系后イ
ナラハノキー葉平

四十四

田ヤケタ女ニ系后思ハ
スノキー葉平

四十五

フシテ思シキテ田ヤ
ルニ系后思ハ我
也ノキー
葉平

四十六

ツシキ人ハ深敷后
急ヲモスノキー葉平

四十七

長思トモハ

宮原トモハ淳和天皇第
十八皇子親平親トモ
ハ
^{ニキ} 媛第の姫宮姓子
同親トモハ
^テ 列之ハ長思
道世
トモハ
コトモナキ女トモハ
一人ハ
^イ 良ノ行ハ
物ニ善成房
娘人物ハ
伯岐行介仲原貫
始伯者也
コトモナキ
トモハ
ヨシトモハ

紀綱言詞之十二廻之中
無勝於今夕之好

異本之周防守藤原隆成娘周防房氏より大楠三
善花光始伯耆房トイフ
己ニテリノヤ女ムラフシ井ノヤノ葉平也ノ鬼ト云ハ女
女ツ鬼ト云事

孝子行白露林之は在玉梅之處見老女
露林ト者所名ノ孝子トシヨリ林中ニハノ机アリソハ
老女より問ぬハ云云我ハ仙女ナリシ戸媼欲ツ思ニ依テ
仙ヲ忘テ案傍ニ卧セリト云ヘリ 万葉云

三千ノケノアツクノ原ノ黒ツクニ鬼ヲモヒリト聞ハニヤ
是ハ大伴家時ヲヨミテノ京ヨリ中細言源氏行ノ娘
ツアツクノ黒墓ト云下ガ方ト聞テ遣ケルヤノ心ツ
鬼ト云事トイフ

之十

二葉名侍事ニ依テ東ノ用白汗ハ行ノスミワヒメノヤ
葉平我ト云病ソ云十九ノヤノ葉平貞親十六ガ
七月七日暮ヨムノ忠仁云ノキヨリ奴テ也

六十

家童子ト云ハ小町ニメシモハント云人ニツキテト云ハ白花
大ハ惟章ノ官人使ハ長官ニテ我前團大由ト
之ハ初ノ使兼ノ長官ト云ハ官初使シモテト云人
也惟章ハ春官文子ト云ハ家長者並大宰大貳ナリ
右京行大支惟致一男ハ侍後ノ兄ナリ師祖官人ト云
儲師師讀ナシト云同事ト云葉平ハ文徳天皇御宇
天安元年二月一日勅使ニテ京ツルハ我出ト云

長平貞觀十二年四月二日トモヘリ五月二ツノ
クニ中平ノ花梅ノ袖ノ香ニ吟ル事

漢書之漢雨漸潤興芳七尺之盧梅繞傳古
袖頭腦脉貫苑菴二丈之薄花疾迷復心

唐國曲史興芳トモ夫書アリトモ書ノ興芳死ノ七日
經ル墓ヨリ木生タリ高サ七尺ノ其香興芳カ白ナリ

菓殊香今ノ橘是ナリ又菴菴婁主トテ夫書アリ
書ノ菴菴行方ヲ不知成ヌ夫歎悲福ニ三月ツル夢

見ハケル我野ニ死テアリ頭ヲ薄シヒ費キタリ其ツ
尋テ我梅生ラテ坊ト告ケリ後モテアリ見ナリ

是ツ見テ夫殊ニ悲クサテ迷復心トモヘリ日本花之節
天皇御宇百濟國ヨリ梅ツクメス餘ニ

ツミテ豊後ノリソノ崩法トモ大梅ツ
リカ梅ノ白クサテ袖ノカトヨムトモハ阪星宮口傳トテ

秘事ナリ

六十一

スタシノ内丸人ハ平定文妹肥前局深何ノヤ葉草
名ニシハハアタミワカルヘキヤ肥前局也シタハシ吟ハ肥前
局カ下領ナリタハシトモハタハラシ也

陽漢書之春呼若草伴野鷄秋拾菓子狂山
猿

波ノスシキトモ事續万葉之氣志ニヨキ人アリケリ海邊
井タリ娘一人アリ母死ヌ母ニ継母ナリ継母又女子一人具
セリカラテハ此継母父捨テモテ我石生子ナシトモ此分

カシツキ思甲斐ナク一夜ノ海船ニテ海士ニ嫁トシテ父是ツ
不用継母を云々事ト思テ賤キシツノ男語テ父ノ見
付夜ノ曙ニイハセケルハハ敵ノ姫宮ト申ツルカ今夜我トツ
シテ子細クツルカ只今約ニハカハ隙ツリキヌツ盗テ入ル
定テヌシテソノイニタ作ルンシカ知ラト云ビテ閉テ継
母父ヲ具メ行テ見スルニハ姫君ヌシタル夜ヲ引カツキテ
子玉ヘリ魚テ継母ヲシタイニテ子入タルニキセテ重ツリ
サテ父ハ姫ヲ死セトス其時娘ヲヌル

ヌキスル其タカリノヌシ夜ハヤカキタヌシノヤキ名ナリ
ヌシ夜ノ神ヨリツタフニツラコソヤキ名ナリ海ナリ

六十二

年ヲロソトツシサリケル女ハ小ガツカヒセ
皇子基隆ノ親ト守信者トシテノヤ
テノ事平コナレヤトニムソトロハタリト云

六十三

コソツケル女ハ三原町紀名席娘有常ヨリモ姉紀信
ヨリモ妹文徳天皇命婦梅后ノ子三人ハ右ノ將頭
景^{文徳}賜姓^{少子}ト云ル大綱之開頭賜源姓ト云男
惟高親ト云モトセシノヤハ山上良丸ヤト云云モト
セト云事ハ云ス后ハ中業平ハ女ト見タリ如何

卷二義アリ

史記之瓊在夫婦夫云遊子女之伯陽百三餘陽
百一不足契借老者子二ハ之惟陽ニ云之句
愛玉免而終夜坐道路之暮佃遠鄉曉

登山峯舉下而勿絕時陽沒刻成漢數
月前進得相見依此執生星再下陰陽
國生道祖半之之二神主男女會合之媒
瓊國名也遊子伯陽ト云ハ夫十六歳十二ニテ夫書ト
ナリ共三月ヲ愛シテスキシ程書ク伯陽九十九ニテ死
其時遊子百三ノ年十九ニ夫歎テ云汝死者誰ト月
シモ見テト云フ陽云我死トモ必ス月ヲ見ルコト我來テ
月夜ニ必ス可見ト契リ終死ス即葬送スル年比ヤサケ
ル為ニ樂テ夫ヲ死テ夫ス或ヤナク月ヲ見ルニ女有ニ
樂テ來リ秋ヲ見ルトモ物ニ事ナシ汝悲ラナス程
夫ハ遊子ヲ思ヒ切成テ白鶴ニ樂テ夫ト云我書ク
乃テ乃テ天河ヲ隔テエワタラスサテ
星

ト成テラルニ七月七日秋ノトモ天河水

ノ室瓶ニシテ行ニ思テハ何ツ汚コトナキコト見ヤ媼事
犯事有ニ思寄テ七月七日ハ帝釋ノ善法堂ハ入堂ニ
際ナクサテハ日初ト云ヘリ有ト鶴ト羽ヲサシキカヘテ
ニ日星渡トモ見テリ又木ノ葉シロクハテ橋ニワタストモ
見タリ紅葉ノ橋トモ見タリ又ニ星列シ悲テ血淚ツ
流テハ白羽ヲ深シハ紅葉トモトモ見タリ
漢書傳云有鶴橋ハ敷紅葉ニ星屋形前ハ次
ハ故ニ織女ツツモコ神トモニ女ヲ守ル神ハ牽牛ツツモ
神トモク女ヲアタラシ神トモケリ續伊神也

漢書女卷云

二六伯撰云

狐狸狼之類滿百年人致衰惟雖然成於十
九也

是狐也、獸必死百歲、十之百鬼夜行、神上成、人少
煩、其少付喪、神トイハ、は世の人ノ人心也、
我ハ世ヲ付喪ト業平、アトシ百歲ニシテ、
シテ早ハ九十九ヲ通カシ、世ハサシ、
モ有之也

ムラカヲタケトモ事 漢書云

恥如市賢人之前、痛如入荆棘之中

この二条の后業平、恒間見タミツル事、
ハツクシク思、
カフ心ヲミシ、サムシ口トハ小遊ケ、
目ハ分目ナリ、
ハナシ、
古撰オハ卷ナリ

六十四

吹瓦ナリ、
業平トリトメ、
ナリ、
二条后御也事

六十五

女トハ二条后思フ、
ナリ、
業平、
又ハ息所ハ、
深后ト、
モツカサハ、
苑人、
大夫、
大侍、
善命、
陰陽師、
天文博士、
備大明至女、
秘事、
祭ハ、
姪列祭トテ、
女ヲ、
ニクム、
ツツ、
祭ナリ、
貞観十六年、
二月十日、
七時、
二魁ヲ、
以テ、
東、
三条河原ヲ、
祭ミ、
ナリ、
コト、
セシ、
ノ、
ナリ、
業平、
ミタラシ、
河、
祓前、
牛洗、
河、
シ、
佛ノ、
心、
ト、
ハ、
而無、
阿弥、
陀、
仏、
女、
ノ、
イト、
ヲ、
佛、
甚、
所、
深、
后、
ヲ、
ラ、
ト、
ハ、
忠、
仁、
ト、
用、
白、
シ、
佛、
坐、
シ、
カ、
ハ、
ク、
ラ、
ト、
モ、
シ、
ア、
ノ、
カ、
ハ、
ナ、
リ、
ハ、
二、
条、
后、
ノ、
タ、
ツ、
ラ、
ノ、
ナ、
リ、
業、
平、
ヨ、
リ、
ク、
ス、
シ、
云、
シ、
サ、
リ、
ト、
モ、
ノ、
ナ、
リ、
ハ、
二、
条、
后、
ノ、
タ、
ツ、
ラ、
ノ、
ナ、
リ、
業、
平、

六十六

知^ル下^ノ下^ノ津國^ハラノ郡^ノ葦原^ニ也^ノ兄^ハ臣^ノ春^ノ
平中^ニ綱^ノ之^レ行^ハ平弟^ハ丹波^ノ守^ト平共^ニ違^ハ紀^ノ有^ル常^ノ
左兵衛^ト指^シ佐^シ千^ノ員^ノ難^レ波^ノ江^ノノ^ノ平

六十七

セ^レエ^ラト^ク六^ノ流^ノ氏^ハ三^ノ祀^ヲシ^テラ^ノ万^ノ葉^古今^ニ遊^ラシ^クハ^レ物^ノ
浩^ク遊^{ナリ}且^ト午^ノ行^ハ平^有常^ノ敏^行敏^方敏^方
和泉國^ト之^ハ大^ノ鳥^郡ノ^ノ葉^平下^ノ領^{ナリ}唯^高沙^子
賜^ク昨^日今^日ノ^ハ平

六十八

和泉國^ト之^ハ大^ノ鳥^郡也^ノ 鷹^ノキ^キチ^ノチ^ノ平

六十九

伊^豫狩^使ト^ク之^ハ月^之日^甲ヲ^シ狩^ル
ハ^ニシ^キノ^ハシ^タム^ケテ^テ後^ニ升^官ニ^シテ^ハ世^ニ入^ル祓^ノ寮^頭
皆^賜テ^ハ食^ク一^番狩^使ノ^ノ食^始メ^テ其^使ハ^キラ^ルノ^ノ郷^ノ
ノ^ノ勤^仕ナ^リ葉^平ハ^ハ殿^上人^トナ^シト^モキ^ラニ^付テ^ハ物^道シ^テ蒙^テ
ト^モ葉^平清^和天^皇ノ^ノ御^宇貞^觀ニ^年之^ハ月^二日^末
シ^カラ^バ日^伊豫^狩升^官ノ^ノ最^者ス^ル升^官ト^申ハ^レ樂^仁天^皇
廿^五年^三月^二日^天照^天神^ノ御^宇ヲ^テ伊^豫國^トス^ル
河^上ニ^奉祀^ス其^時才^二ノ^ノ皇^女ヲ^テ升^官ニ^奉行^ヒ也^ト始^メ
倭^姫命^ト申^キニ^テ中^絶ス^ル事^トモ^リ又^時ノ^ノ奉^行
今^ノ升^官ハ^レ文^德天^皇ノ^ノ御^宇清^和ノ^ノ御^宇深^敷后^ト
括^子内^親ノ^ノ貞^觀ニ^年ト^定升^官ナ^リケ^レル^ノ人^トモ^リ
ト^モ深^敷后^ト葉^平ノ^ノヨ^クイ^タハ^シト^仰ラ^レ也^ト密^史
ト^モ深^敷后^ト葉^平ノ^ノヨ^クイ^タハ^シト^仰ラ^レ也^ト密^史

ナシハカクニテ有ケルナルハト云仲人呼産前ナリ
ヒサ子トアル人ナシハト云ヨキト云ナリ子ヨリ七三ニテト
云一河ツカ更ニ分トアリサハ子河ノ始ヨリ七河ノ
三分ニテ業平ト相結ケル間云何ソサセ夜深ク也
酒ヤ答云寅時ノ始天祚ノ御廳入酒ナリ呼産ハ
伊戸ツ用ク上童入相子ハ祭供ヲ稻葉感テ奉白
而同寅ノ河ノ入内ノ為セニ御酒ナリ是亦ハ結事ニ
ナ井サキ童ヲ前ニ立ラト云ハ呼産ヲ云ハナ井サトハ十
四歳ナシハ云ナリ童トハ駿ヲ左名ニ年分テカメノ系
ヲ以テ結キ童形ヲ装束メ伊戸ノ用ク上童ナシハ云ハ
天照大神ノ二二侍者トノ呼産ハ天祚稻子大神トテ
在ス其宮女トハ二人ノ女ヲ名ケルニ年

伊賀守継隆娘其時ハ十歳程

豊后娘其時十六才所宮ハ十七才ニテラセぬヒキ
後朝ノ君ヤコシノテ所宮ナキクラスノテ業平
伊賀守而所宮頭藤原継隆ナリ

カ千人ノ勺ハ科之メアツサケノ勺ハ業平ツ井松ト云ハ
ツイ松ノスミ續松トカケリ其ツツイニツノスミト云ハ
アケシハ尾張國ハコニケリト云ハ伊賀ノ入河鈴鹿川
ツクハ也河ハ尾張國ハコニケリ也ヨリエニツクハト云ハ
縁ニアハト也

七十

ツホヨトノワタリト云ハ伊賀ヨリイツキノ云ノアラテ下
ニハ科之メ呼産ナリミルメナルノナリハ業平

七千一

カノ文ニ相子ト云ケルト云ハ相子ノ相子ト云ハヤフル
キ相子ト云ケルハノキハ東平也

七千二

伊豫國ナリケル女ト云ハ相子ナリトナリノ國ハ相子
瓦塔國ハ相子ト云ケルハ相子ト云ケルハ相子

七千三

アリトキケトセウソコワタニイフヘウモアラヌ女ニ
后同ニ見テノキ万葉中十八卷ナリヲ葉平カ

七千四

女ハ小町イハ子ヲミノキノ葉平

七千五

イセノ國ニイテアラムト云ケルト云ハ

タリト相子ト云ケル相子ト云ケルハ相子ト云ケルハ
シホトノハニシラナリノキノ相子ト云ケルハ相子
平イハヨリキハ相子ト云ケルハ相子

七千六

氏相ト云ハ大原ト云ハ明相ト云ハ長良中細ト云ハ大原

栗原ト云ハ相子ト云ケルハ相子ト云ケルハ相子ト云ケルハ
氏相ト云ハ相子ト云ケルハ相子ト云ケルハ相子ト云ケルハ
原野ト云ハ相子ト云ケルハ相子ト云ケルハ相子ト云ケルハ

近來ツカサハル相子ト云ハ相子ト云ケルハ相子ト云ケルハ
相子ト云ハ相子ト云ケルハ相子ト云ケルハ相子ト云ケルハ

父選云能雖十歳心長身替為相子能雖百

只心遊身薄為兒

七十七

田村ノ沙門ト申ス文徳天皇女御宗子三系
大良良嘉祥三年女御在ニワサハ一周忌ナリ
右大將經形ノ女御才ノテヨム人ハ新平放行業
平ハツカイナカラト云ハニサニナキナカラ
テリ心皆ノテ業平沙佛事ハ三月晝日ナリ
唱導ハ天古唐ノ大僧正良源

辛八

ツヤキコト申ハ同上ニワサハ七日四十九日也右大將
經形ノ女御ノ弟良相ノ二男ナリハ階禰沙門
暎藏天皇沙基行親ノ十九

其年三系ノシホニキトモ貞部

系大政大良紀若席初沙清和沙門曲水高
ノ為沙幸アリト云其時沙皆ツノ教アリシハ大沙幸
ト申ス或人ノ沙サツシノカト云ハ内裏ツホ子町ナリ律鏡
ト云云ノ異本ハ隆敏其末内侍トモニツリ沙隨カハ
右其末前生勝忠良木之先奉範季也舍人橋
惟孝ノ子トモノテ伊勢長中隆敏内侍

七十九

氏ノ中ニ沙子生カリト云ハ貞數沙子案后腰ニ生カ
フニ行平孫業平ニ甥ニシテ沙坐セハ氏ノ中ト云テ
ヨム人ハ行平放行定又業平我門ニテ業平
カヨム人ハ史記云

暫相千丈竹能像日月懸葉間榮長年
皇而露滴滑門前成中吞彼者得壽朝
北命影豐澆而罕殊復添數倍氣增千与
心替相トシ者心入テ新ヲ拾ニ峯ニ富深キ而鶏
鳴音アリ行テ見ニ巖塔アリ其中仙人多クアリ
藥ヲ合テ服ス殆内廣トメ云限一本ノ竹アリ高
ト五分量竹葉向ニ日月也ヲ赫ク仙昇テ葉
坐セリ彼竹葉ヲ懸タリ葉ヨリ滴ル病ヲ膏テ皆
得上壽以藥ヲ名雲確散ト菊ヲ酌入テ春テ桂ノ
脂ヲ合セテ丸藥ニ替相是ヲ見テ仙字メ改郷ニ
即門行ヲ殖テぬトセシヤ

長房春秋曾記之此有相志

漢書七之雲確散桂代人醫

以雲確散ノ病ヲ膏テ丸藥ニ替相是ヲ見テ仙字メ改郷ニ
數少子午丈竹如榮長ト坐サ時ニ門皆モ陰ニ
カクシテ榮ヘトヨメリ竹ハトキハ丸物ナシハ長花モ
ワカス陰ノアトハカクヨメリシ赤午カタヤリケルト云ハ葉
平ハ仍平ノ弟ナシハ少子ノ四為ニシ午ニサシハシヤ云ナ
ルト云ハ少子ハ葉平ト子ナリ

八十

ツトロハタル家ニ藤花ウタル人ハ有常人ノモトト云ハ
葉平伊鏡ア汗ハヤル也又シツツノシテ

八十一

左ノツボイニシ午キミト云ハ河原院左大臣也

嘆哉乃七ゆ子にサレトモ源姫ヲ賜テ其人ニテアリ
ト云レバ月トハ貞観十一年十月にゆ子達貞元
親ト雲林院ノ親ト嘆哉ゆ子ヤタイ病ト云ハ業平
シホカトノ子ハ業平ニ午ノ國ニイキリトトハ長良ノ
大原ノ山莊ナリ

八十二

惟高沙子ハ文徳王子ニ在セハ津國世中ヲ守ル事
バテニニ義定家流ニタエテ櫻ノトヨムキ也余
流ニタエテ櫻ノトヨムキ一新荷午シラソノ子ハ常
酒ニタセテ野ヨリテ人ハ年中將定又酒ヲニキト
云事 文集云

石柞得三木也天命

漢明帝ハゆ子ニ七年早水

柞ノ家ノハニ三侯ナ来リ水鳥常ニ来ル柞思テ
水ノシラソノハ来ラメトテテ人ハニ侯ノ穴ニ行
葉ヲ覆テ取ラ見ルハ常ニ酒ノ一滴ヲノメハ
七日之間食物ホシキ事ナシ味殊勝ナリ余可シ水
王ニ獻スバ賞ニ石柞ハ國守ヲ賜ル其ヨリ酒ヲハ三木ト
モ云竹葉トモ云ハ石柞ヲ子ニ石柞トモ者アリモ
是ヲ思テワロキ食ヲ与シテテハ木ノ侯ナラシ
置テラシ酒ト成シト云ハ其本ト竟帝ノゆ子前
泉園ト云ハ酌柞トモ者アリ凡病ヲ治セヤ為
業三本ヲ切ツ其木切中ニ蜂巢ヲテリ其中心
竅ヲニリテ酒トナル早ノ時竟王ニ獻之王即以酒

作か玉^リ今ノカラタ午ハ蜂ノ蜜ニ米ハ蜂ノチツ子
トト^リ云^ハ酒ツノ又ハ凡ニ寸ヨリ近ク身ヨラスト
見タリ寸シキトヨム事馬ノ寸ニ寸シ^キ寸ニ寸ト^キ也
ア^リ河ト云ハ夫^レ何^レア^リケ^レ何^レ目^レ跡^レノ河ツ云ナリ
カリク^ラシノ^クナ^リ東^平ヒトセ^ニノ^ク者^ハ常^ノカ^ナナ^リ
ノ^クハ^業平^シナ^リテ^ハノ^ク者^ハ也

八十二

ミ^ララ^トテ^テノ^クハ^業平^ハ可^クノ^家ニ^シキ^テト^クヤ^ハラ^ヤト
思^フヲ^ヨメ^ルレ^ハワ^スシ^テハ^ノク^ハ東^平

八十四

身^ハイ^ヤシ^カラ^ト云^ハ實^ニ賤^ニア^ラス^姓ヲ^賜テ^ト郎^ト
成^シ云^ハ母^ナシ^クナ^リト^云ハ^平是^レ同^ク

始^メテ^テシ^テ坐^セ云^ハ又^シハ^ノク^ハ伊^ノ

サ^ラ又^レ列^ノク^ハ業^平也^ト

八十五

ツ^クニ^ツル^君ハ^惟高^親ト^共十九^人ハ^大日^比藤^原敏^行
有^常業^平セ^ムシ^十九^人ハ^氏ノ^位ヲ^授ケ^ル者^ハ原^隆業^入
道^後三^位基^清入^道高^四位^信定^入道^十リ^思ト^モ
ナ^リ業^平

八十六

ワ^キ女^ハ河^原行^平娘^今ニ^テノ^ク業^平ニ^女ト^相
類^シ云^ハト^云ハ^業平^ハ清^和河^門ニ^奉任^ス河^原之^清
和^ノ后^ニテ^ハ内^裏ニ^坐セ^ル云^ハ十九^人也

八十七

葦屋ノ里ハ業平有常娘領所也アシノ屋ノ系
万葉ノ子ノ内大石三善廣路福丸中納之ノ許ノ
奥ゾレニヤリケル也事ノ子ノツケノシテトモハ海ノ
飯ヲ入テ膠付ル小キ桶ノ飯小桶ト書ケリ葦屋ハ塩
ツノミ焼クアミテ奥ニ取ル福丸アヨメル子ノ今時
福丸大納之葦屋ノミテアリシノ衛尉佐トトモハ兵
部依教方左衛門佐利貞右兵衛依元成トシテ
吾平之者出門行依有原教方右衛門行依平千五
トモモフ米寄持トモ右衛門持約平ツモ
イサコノ心ノ外ニトモハ小利心ナリソノ醜モトヨリハコトナ
リトモハ天台山ノ醜ヲ衰淡トモハ文集ニ
天台山ノ醜事トモハ衰淡

いふ心岳ノ其一ナリ

天台山賊之高山中岳醜ト長如白雲天妃
常洗不淨之垢毛来自三度 註云天余
ヲ不淨ノ垢ヲ洗フト毎日三度也

此者彼天台山衰醜ハ四十二人ハ布引醜ハ二十丈サレハ
衰醜ヨリモ高トトモハ我世ノハナリ以平ニツカヒト
モハ待期ナリ位也

文選云賢人不調歎愚人不来貝

又キミツルノ子葦屋之月ノ茂能之ハ中納之三善
茂秀二男貞親二年三月疔瘡ヲ死ナリハハ夜
子ハ平島年三業平ワタツワミノ子有常娘

新古今ノ其ノ事トナリ

ワキキニアラヌ共^{トモ}連ハシ平 有る事 云々

久方ハ月ヲモメテコシソコノツモシハ人ノ老下十九ニ
定家流月ヲモメテトヨムニ余流ハ月ヲモメテト

ヨメリ

八十九

ガヤシカラヌ男ハ業平之方ハ子ナシハ云々ニサシル人ト云ハ
科之方ニシタ伊親ハト云ハ云々サキニナリ人ニシヌノ事ハ
業平心ハ我ラヒタニハスハ死ニテ思靈ト成ラヌソノ口
ナ神ノタリトテ何ノ神ナシ云々ツタラヌスラムト
ヨメリ

九十

ツシナキ人ハ深敷后サケラフハナノ事

九十一

元慶元年三月盡ノ日ニシシメトモノ事業平

九十二

二隙ノ后ノ敷ノコラニ由坐ニ時ノアコシコラノ事ハ万葉
ノ事ニ赤人ノ宿祢丹後伏千雄ヲ評ニ行テ度ニ由テ
アリテヨミテヤルニ彼佐千雄ト云ハ女ニ特統天皇ハ河
ナリバ事ヲスハナスラニ事ト云也

九十三

イトタカキ人ハ深敷后異本ニ隙后アコシク事業平

九十四

女ハ深敷后西三榮右大臣良相娘ノ子ナル中ト云ハ
在少将滋春ノ人男ハ右近兼将中將貞文ナリ口是

ト云ハシラフムル詞ナリ婁ハハ字也

漢書七之梁主昭婁又梁成王古臣之賢人

賢主政理ヲ不奉流車トシ成王恨ハシクナリ

秋ハ春日ワスルモノナシヤ霞ニ霧ヤ立ニサレ魂

ハナシハ春ノ前秋ハ後ナシハ前男我事ヨハワスシ又今

夫ト申ツミソ思エトヨメリ女ト也トハ深敷共事同物

千ノ秋ノナリト

九十九

女ハ深敷同侍ナリ異本ハ二深名トナリ業平モ之系后

仕奉キ女モツサツニツルトトハ同侍ナリホシノナリ

業平

九十六

女ハ二系后トナリ女ハ一モ一トナリ

家ニツクセシ時ノ女ノ身ニサナニトハ實ノ瘡ニハ

ラス九系后ハ自原有國ノ男和泉ノ名ヲ將定國

近院右大臣源能方ノ男近院右大臣當純ハ之

長良ヲ智リタルトモツニツトハ之ノ男ツサトモ事

陸陽記

會合密秘之良以家左為道

女ヲ故左トシテ素盞尊有由ナリ 古撰十三

堅置之天和鳴根野始余里迹伏男故佐女野

契不為地

トトツシ物ヲナキテ人トモハクナクナリ之ハ物

心昔キヤセトナリトモハクナクナリトモハクナクナリト

之事

汝纏集之身在歎心取契

舜帝記一之古宗十四載而蒙外母助肉痛皮

瘡煩契

信寵和之者ノ子十四支時繼母後之依テ難堪之

昔ツ見し事ツ之ニ九煩シキト煩契ノ言ツ載ハ典

習也

同記之古宗得天運智恵心餘給堯王二妃終

而除煩契之若凉凡身忠

是古宗親考ツ為宗之堯王是之復テ二人ノ妃

宮ツ賜テ為書ト終車ツ以テ古宗并姫女二人ヲ送

取テ王位ヲ讓テ舜王トセシ時煩契

身ツ患シハサシハカハル煩契キキナリトナリ

相ツトニ十九ハ口古イテキニケリトニハ業平トツシ如シト

スルトニ事ツソバニ人ノ中ヨリシテハ古ヤチキ也セリト

俄ニ逆ニキタリトニハ逆宣之基經ノ名ヲソシスシトテ

逆ニ甚ク秋ヲケテテノイハニ業后ヲノハフリシテハトハ

嫁ナリトニノササテツシテトニハ人ツ咒咀スル事ツ也

海人バ人ツ咒咀セトテハキク面ツテハシテ極ツツキキテ

日ニムカヒテノロク

陰陽記之天伯下真言二年三指ヲ解ツ合小指

大指ツトヘヨ明日掩日月及送咒咀成就并ト

世テ入平ノ腹ツ合テ送天神ト唱テノ三度踊ルハ

日ハ月也時向テめびス也秘事ノ

ホリカハノシホイニシクキミト云ハ堀川者古長基經
運宣云ナリ四十賀ハ貞觀十六年三月九榮西
洞院家ニテノミタニシ也櫻花ノヤリ兼平シホイニシク
キミト云ハ白河開白久改也良房ナリツカフニツル
男ハ兼平良房ニ後須ツリ時也我ツノムノヤ兼平

九十九

右近馬場ノヒシリノ日ト云ハ賀茂祭ノ使卯月申午日
右ノ馬場泰ヲヒシリノキヌヲ如ルツ云ハヒノ深赤ツ以
種アラスヒ入テ文ヲツクテシク織ヌ夜ナリ又其日沙門
シリムスヒ如フツ日シリト云帝ツ日トカキ事如常車
見テ其女深敷ノ内侍ミスモアラスノヤ

ナ内侍也事ツシトハヒシリニシリト云

百

後凉殿ノハサト云ハ常寧殿ト後凉殿ト交作相
ヤトトモ人ハ深敷后ヲスシ草ツフル跡ト云ハノヤ兼平

百一

右中弁友原將親トハ冬嗣人后孫良國ガ子也サ子
云ハ首頭ナリトヤキ花ト云ハ有益花ト云ナリ花ト
ナヒト云ハ花ノ又ト云ハト云ハナリヤ詞ハヒラサリケリト云
實ニヤ詞ヒラサレニハアラス兼平ヤヤハ心ツ先トメ詞
ツヤサラサレ也百今席ニ在原兼平之御其情
有餘其詞不足如萎花雖少款色而有萱香
サハ詞ハ不知云ナリサクラ花ヤ兼平ヤ心ハ櫻井

大政大臣^{ヨルヤハ}國香^{ヨルヤハ}夫トノ重人^{ニテ}繁昌^{セシヨリ}今ノ良
房^ハ榮花^ニサシリトヨメリ^一後源^{國香}楊井^ツ居^ハ
セリ今ノ良房^ハ茂氏^トハカヲヨメリ

百二

子^ハヨニサケリト云ハ實ニ石^ノ源^ニ知事^ノ
難^キ也^アテ^ハ凡^ノ女^ノ成^ルト云ハ前^ノ科^ノ官^{ナリ}シ^ソク
ナリケト云ハ右^ノ兵^部少^輔尚^也後^ニ位^高階^茂範^ハ
子^トス高^階氏^ヲ繼^テリ^ハ中^納之^ニ成^テリ^タル^ハ
良^房才^良相^ノ養^子トモ^イリ^ソム^クト^ラテ^テ業^平

百三

深草^沙門^ト申^ハ仁^明天皇^{ヨリ}沙^子達^仕給^ト云ハ
光^孝親^トナリ^ハ仁^明第^三沙^子ナリ

子^又ル^ヨノ^テ一^ニ業^平

百四

コトナ^ル事^ナラ^テ凡^ノ人^ハ科^官ヨ^シシ^ミノ^テ業^平

百五

女^ト云^ニ業^平 白^病ハ^ノテ^名

百六

沙^子達^ト云^ハ惟^高沙^子負^元親^ト也^{情和}
雲林院^親ト云^ハ沙^子セ^シエ^ラト^云ハ負^親十^二年^シ龍^田川

三^ノ遊^給シ^マキ^ハヤ^フル^テ一^ニ業^平

百七

ソノ男^トモ^ナリ^ケル^人ヲ^云ハ業^平妹^ハ初^等ノ^女同^記有^ル
原^敏行^ト云^ハ内^{大臣}留^上丸^ヲ子^也ツ^シク^ノテ^名敏^行

アサミラソノチ葉平 女ハリチヨメリカスノニシテ

百八

百八

女小町風ラケハトニ波ラスノチ小町ヨヒコトニシテ葉平

百九

トモタケ人ツシテナル人ハカキキヤ書ノ成テ小

原ノ姉ノ許ヘシヨリ花ヨリモノチ葉平

百十

ミソヤニ通フ女ニ葉平 思フニリノチ葉平

是ハ人ノ魂ノナル七時ヨリ柩ニカタルハシツテ死ス前ニカ

タル早ク死トシテ人魂ノモツ見テ補文云

陰陽記ニテ訂殺若ヤ弁ト云

カラヌケテハ河トニシヨシム

トテキヌノシツノツニシテ結ト見タリコシヲモテタニム

スヒセヨトヨメリ

百十一

ヤコトナキ女ト云ハ清和天皇姫又選子内親トシヤナク

ナルト云ハ清和御門前御侍ト云也イニシハヨリモヤシケ

ムノチハ葉平ニタヒモノシルトスルモノチ選子内親ト

スル也ト云ヒトハノチ葉平

百十二

子シラロニイヒキル女ハ選子内親トコトサニト云ハ誤成

天皇御子清具親ト光孝具シテ須間浦宮造

スミカフ也スニノチ万葉集ニテ葉平詠也

男やそメニテトニハ小町ハナシテ独アリし時也ナカニ又
ノテリト東平

仁和沙門ト申ハ仁明第三皇子光孝天皇ノ御
仁和元年沙門位同二年正月廿二日東山セリ
河内守奉^リ鷹狩ノ御奉^{ナリ}今ハサレトニテ
ナク思^ヒトニハ御奉^{ナリ}ヨリツシハツカサシノ職^ニ似^テ氣
ナシトニナリ狩衣ノ袂^ニ鶴^ヲ又サタルニハテ^リ書^リ
テリツキナサヒノテ^リツキナサヒトニハツキナサシ^テ衰^レ
ハタル也

文集之槿花向日色忽衰

沙門ノ沙氣色アミナリケシハ葉平ナ

狩トツ鶴モナクナルト詠シケル時沙門ノ沙氣色ナシラセ
御ツリケリトツビ故ニヤシ平其年九月四日死ス沙門
モ次ノ年十月十三日崩御アリケリナルテトツハム
ニシキ事リトツ申ツタヘタル 柞^ハ沙門^ニ小社^ト沙門ト
申事^{アリ}仁明文徳清和陽成^ノ桓陽成^ノ狂氣
依^テ俄^ニ位^ト下^ル陽成^ノ沙^子元良^ノ之^ツ位^ニ奉^付キテ
見^ル福^ニ中宮^ニ召^ラク不^奉付^ル今^ノ時^ノ帝王^ニ備^キ仁^ニ之^ツ
ハ光孝^ノ位^ニ奉^付ト^ル郷^ノ僉^ノ儀^ノ付^ル右^ノ長^ノ朝^ノ被^テ
之^レ老人^ト即^テ位^上古^ノ知^ル何^レナ^ク有^ルト被^テ申^スシ
大納^ノ之^レ國^ノ經^ノ被^テ申^スケル^ル唐^ノ島^ノ王^ノ六十^ノ我^ノ朝^ノ清^ノ寧^ノ夫
皇^ノ四十^ノ一^ノサ^レハ^ル者^ノ少^ク細^ク但^シ車^ヲト^クハ^シ連^ノ小^ノ社^ノ車^ヲ

通せし王位付へし石然若奉付へカラス上格ヲ車ヲ
向車無相違し間王位奉付平一而向小松沙門
ト申也

私之業平元慶四年五月廿八日五十六歳ヲ
逝去スト見タリヤシハ陽成沙代ニ死スト注セリ
セリ河ノ行幸ハ仁和二年中間の年ヲ隔タリ
サハハ阪ヲ業平ハ石ノ書並之子息滋春ヲ
註之ん九米菴院塗籠奉ニセリ河ノ行幸
ヨリ奥ノ滋春書續之見タリ

百十五

三千ノ國ヲ男女スミケリト云ハ長良隆奥守ヲ大原
栖原ノ業平以テニ業名トアラフ

伝来

ノ千ノ業集ヤ也福丸大紙云ミ
シタリし河ハ羽采女ヲ通ヒテリ 福丸末ノ上ル子ハト
之ハマテノ馬餞ナシトシテアリし時タリハラヤア子ハト
ヨミタリし時ハヤ采女ヤヨメル也長良大原后始ヲ
百ヲモ栗原谷ト云ハヨソヘテニ業名神始シナリ

百十六

三千ノ國ニテニドヤニケリト云ハ如上思フ人ト云ハ者帝
娘ノモトヘニヤル也ヤミニヨリミルヲシテノヤハ福丸大紙
奈良ノ京ニアリケル書ハ許ハヨミテヤリケルヤ也ハツ
ナスラヘヤト云ハ右ノ要ヲ取テトウツ助ナリヤノ
一歌ナリ

私之ハ阪ヲ男トモトヲ注セリハ本ニ見ハ不

丁乃阿曾人ト云事

文集十六云妃女阿曾アヒナ好辱アヒナ否アヒナヤ

ヨロキ女ノウカラ又心ナリ其道ツ好ハハキナリヤイナヤト

百十七

伊門住者乃章之始ケリト申ハ文徳天皇ノ信者
乃章也我見モノナリハ万葉十九神祇アリ石上
し丸作ナリ是ヲ業平ヤ詠也

伊神現形之始ト申ス伊也ナリムツ之ト君ハシラ
ナミノナリモし丸ヤ也ナリ信者大明神ノアソハサシ
タリ之万葉十九卷百ナリ也但比阪スハ伴瓊物語
深之義アリトイヘリ丁乃乃アコ子ノ浦ノ口傳ビ者
ト云也

百十八

玉ツラノナリ

百十九

有常娘ナリカタミヲソイニハアタナシトヨメリ古今ニ
アタナシトヨムヘシバ物語ニテハアタナシトヨムヘシ

百二十

女ノニタヨヘストシホヘタルト云ハ四葉名ニモケルホトニ我也
サヤウノミナシラストノ玉ヒケシハアソフミナルノナリ業平
鏡麻之明神ノ祭ニ女ハ夫シタル数ナシ作テメニ付テ
祭セ男ハ女シタル数キ子ヲ作テメニラスル祭アリサシハ
其祭ヲセヨク知トノ始トモ鍋ノ数ニテアラハシスル
物ツトヨメリ

梅ノホヨリぬミステル人ハ河原院右大臣融ナリ
異本ニ其子致ト云ヘリ考ノ花ツメテテフノナリハ
業平也ナリ融異本致梅ノ花笠ト云事權馬
樂十卷大和ヤマト氏考ノナリ

アツヤキツカタイトヨリテ考ノヌラテフ笠ハ梅ノ花
天照大神ノアミノ岩ニト午コモリテゆ坐し時祇建
ノワタヒぬシナクハナリツヒキテ梅ツホヨリおタシハカク
ヨメリ考ノ花ツツツタツトテ梅花ノナリカハナリテ
馬ノ頭ニハ花笠ツキタルニ似タリトヨミタル本ナリ也

百廿二

ナキル事アヤコル人ト云ハ小町基造

住吉神主先祖也

九

ツムナリヤコロノナリ業平井テノ玉

日 矣

本記ニ右大臣橋諸兄ハ淡國ノ井寺ヲ作テ岡伽
井ヲホシリ彼諸兄死テ後殊清友ノ井ヲ水ツム
諸兄ノ面敷水ニツツリテアリシヨリシテ忘シキ人ノ執
ミル事ニ井テノ玉水トヨメリワスシト實シ甲斐ナリ
エラストヨメリイラヘモセスト云ハエラスナリ

百廿三

深草ニスミケル女ト云ハ有常ナガサト娘ナリ異本ニ二葉石ゆ
門カドヤクシノ後深草ニゆ坐トモ見ツリ年ツ經テナリ
業平也ナリ有常ナガサト娘

百廿四

何ナリケル事ツ思ヒケルトキニサト云ハ辰権タケノリナリ

一我元慶四年二月廿八日未死死之廿七日初
以伊豫之二我令授之仁なきヒタノ思煩ヲ又
リ

思事一ハテソタニヤミ又ハキ我トヒトシキ人ニナケル
サトミ子懸滋春伊豫二門ノ内院深理ヲ傳得ト
之ハ一長能ヲ私託之亞將發天地以來之十六歳元
慶第四之天仲夏下旬之復於洛陽城東郷告
逝去畢一トミナリ

百廿五

男ワツラヒテ心シヌヘクヌヘケシハト云ハ業平死トスル也
二条后日ヲヘタテス御訪アリケルヤ其五月廿八日十
ハル事アリテ問ハセぬスシテヤリシヨ

ツシクシ思ハイトハキニ今日ハ

テ
先

業平は御ケツ見テ御事申サレトカキシ
コサシテアリケルカ死ヌヘクシホヘケシハ

ツサシ道トハカ子ヲ聞シト所ケラトハ思サリシ

トヨメリハ時ヲ常娘恋テヨメルヤ

ナシサリノ道ヲツアリケシニツチカタリシトムル開守ハ

トヨメルハ生ヲナシサリニ道ヲ路ヲソトムル開守モ
リケシ真骨方ニラトニソムキヲ道ヲ留事ハ開守モ
ナシト歎テヨメル也

長能私託之悲歎是多ニ際后若今日悲不問
涕泣潭深有常娘者行留無人嘆

本ニ本ニトテ

長能私記

為父元跡平城弟三之皇子阿保親王弟之息訪
母由祖桓茂弟八之寵姬伊豆内親王一男也春
秋二八之歲泰拜王魁以降仕文德清和二君教
歲戴禁遏之星霜為升官宇佐勅使兩度行
神社之祭祠朝交雲客於膝生仁儀之礼夕比
姓仁於枕示艷色之為

又之業平即男女會合之行顯和浩具由之媒記
一托之遺筆是名伴塚物浩息男滋春者傳得
能艷好泣加又之遺記

又之今此物浩為体上載古撰上托之語「庶稱是
記漢書之心言通之奇宗存法道」

又之若紫契結春日野草葉不絕

間嶽密以憲渡之方渡八橋仰陽成之天
措渡守見流渡浪者角田河之夕思閑碎衣
感者之條東之曉空矣

又之不烈王位見二條之條兩后不憚神邊犯寵
官楊子二妃

又之津平洗河奉弊歎明神不受之埋致朝臣
比車表生免安見之核

又之遙登小利山者咲漢州天岳之瀧遠進東
滿道者遠詞於奧國之境

桓武天皇 — 平城天皇

淳和 — 有國 — 定國

賀陽親王 入子三仕治女八

嵯峨

良實 三位下中納言賜小野姓

良家 朝郡司 — 小野小町

安世 三位上中納言賜良率姓

宗貞 良將 仁明天皇崩御之時 出家 道照僧正是也

素性 律師

生子内親王 サカノ養子

伊豆内親王 阿保親王室 業平母

仁明天皇 — 文德天皇

人康親王 山階權師 — 雲林院 常康親王

基隆親王 恒吉 — 光孝天皇 小松天皇

恒康親王 有弟娘 子ヲロニ人 仁和寺門也 初幸以山門也

真如親王 弘法王子入唐而死

阿保親王

仲平 氏子權大輔母三條 大政天下紀名席娘

行平 母同上 — 四茶后 清和后 貞數親王母

眞見王 母同上

行慶 僧都

業平 母桓武才八娘伊豆内親王

初草女 放行書

守平 左兵衛佐

棟梁 元方 六十一

滋春 物治秘書 侍從自伯文滋春 相傳子也 — 時春 相傳物治 秘書

師尚 左兵衛 高階茂範為 子継高階姓 — 元清 右大弁

母文德天皇妃宮伊賀所之 祐子内親王深敏后侍娘

惟純 氏子 — 業正 大中弁

宗屋 均春守 — 朝之 氏子大輔

元康親王

融

河原院左大臣

致

左京大夫
了入下ノ好色

昇

大納言

順

能登守

惟高親王

母三條河原ノミヤミ

清和天皇

水尾沙門 富士山

母深草后忠仁ノ娘

能有

賜源后を承
右大臣下

當純

近衛院
右大臣
膳二

仁之

周防

見國

後三位
時物
氏ニツクル
以家ニ施
ヤリ

道親

中納言賜源姓

道濟

眞依

陽成天皇 元良親王

母三條后

三品

貞國親王

貞保

龍田川

貞元

同上

貞數

千イロア儿竹
實三葉平子

選子内親王

須間浦文





132X
34
1